

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2026年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業254社
3. 内 訳：製造業54、卸売業25、小売業40、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業32
4. 回答企業数：142社（55.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

一売上DIは2期ぶりのプラス水準であったが、業況DIは2期ぶり、採算DIは5期連続のマイナス水準に—
前年同期（2025年4月～6月）と比べた今期（2026年4月～6月）の状況
今期と比べた来期（2026年7月～9月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲0.4で、前年同期比で5.4ポイント低下しました。主要3項目のうち、売上DIは2期ぶりのプラス水準となりましたが、業況DIは2期ぶり、採算DIは5期連続のマイナス水準となりました。来期の業況DIは4.8ポイント低下しマイナス水準、売上DIはプラス水準、採算DIはマイナス水準になると予想されています。また、中東情勢の影響で先行きに対する不透明感を示すコメントが目立ちました。

製造業では、売上DIが前年同期比22.2ポイント上昇の22.2、採算DIは同11.5ポイント上昇の▲11.1、業況DIは同9.7ポイント上昇の0となりました。

卸売業では、売上DIが同13.4ポイント上昇の0、採算DIは同6.6ポイント上昇の0となりました。業況DIは同12.3ポイント低下の▲5.6となり、マイナスに転じました。

小売業では、売上DIが同14.3ポイント上昇の14.3、採算DIは同8.5ポイント上昇の▲23.1、業況DIは同8.6ポイント上昇の▲7.2となりました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同6.3ポイント低下の21.0、採算DIは同57.3ポイント低下の▲30.7、業況DIは同26.6ポイント低下の0となりました。採算DIは50ポイント以上の低下でマイナスに転じました。

観光業では、売上DIが同10.4ポイント低下の13.8、採算DIは前年同期と変化なしの▲3.5、業況DIは同6.9ポイント低下の▲3.4となりました。業況DIはマイナスに転じました。

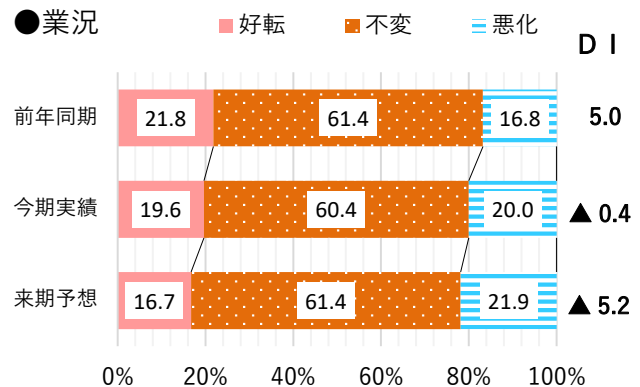
サービス業では、売上DIは同28.0ポイント低下の20.0、採算DIは同41.3ポイント低下の▲13.3、業況DIは同24.0ポイント低下の0となりました。採算DIは40ポイント以上の低下でマイナスに転じました。

建設業では、売上DIが同3.6ポイント上昇の9.1、採算DIは同24.8ポイント上昇の13.7、業況DIは同13.6ポイント上昇の13.6となりました。採算DIはプラスに転じました。

業況、売上、採算

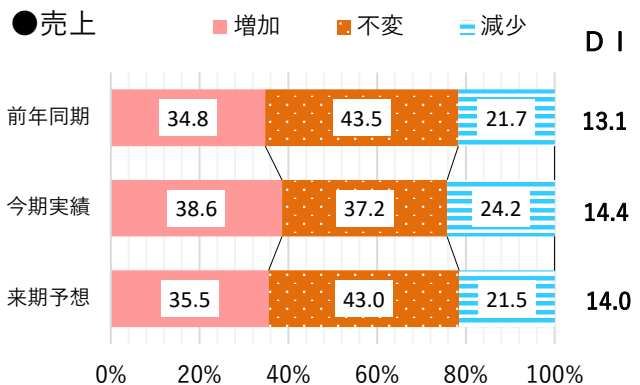
今期（2026.4～6）の業況DIは▲0.4で、前年同期（2025.4～6）と比べ5.4ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲5.2で、今期（2026.4～6）と比べ4.8ポイント低下すると予想しています。



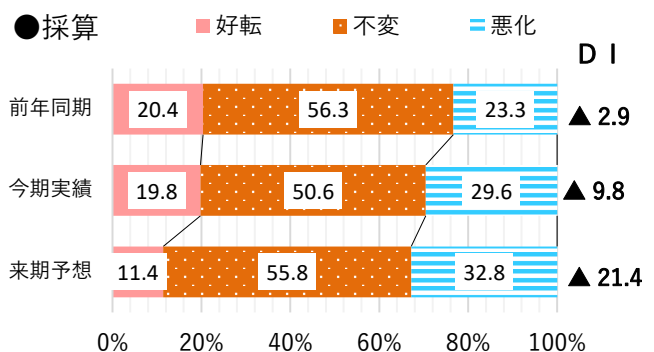
今期の売上DIは14.4で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは14.0で、今期と比べ0.4ポイント低下すると予想しています。

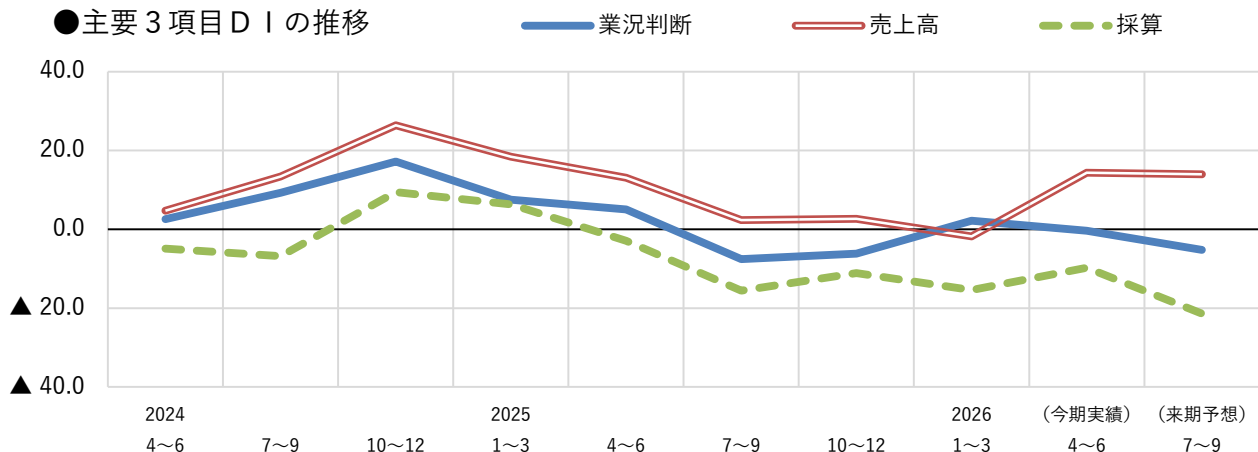


今期の採算DIは▲9.8で、前年同期と比べ6.9ポイント低下しました。

来期の採算DIは▲21.4で、今期と比べ11.6ポイント低下すると予想しています。



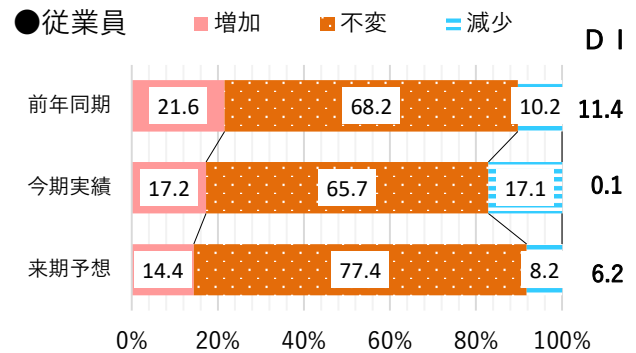
●主要3項目DIの推移



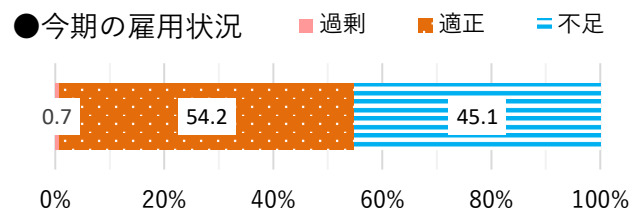
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.1で、前年同期と比べ11.3ポイント低下しました。

来期の従業員DIは6.2で、今期と比べ6.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は0.7%、適正であると回答した企業の割合は54.2%、不足していると回答した企業の割合は45.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.8%を占めました。

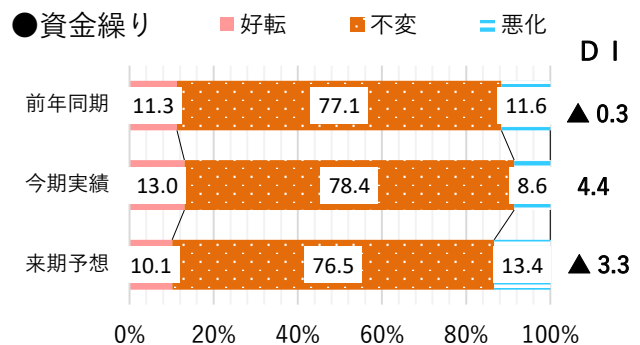
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	10.6%
	不足	6.3%
不変だった	過剰	0.7%
	適正	40.8%
	不足	24.6%
減少した	過剰	0%
	適正	2.8%
	不足	14.1%

※回答総数142社

資金繰り、設備投資

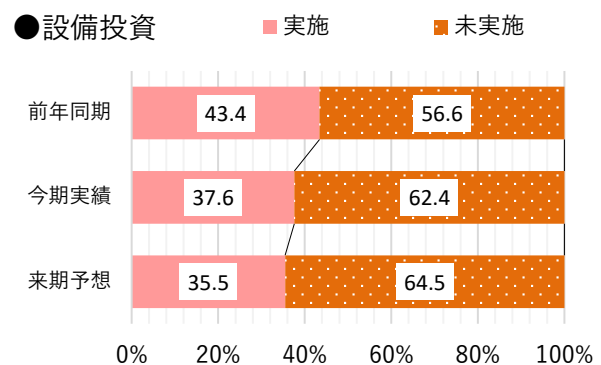
今期の資金繰りDIは4.4で、前年同期と比べ4.7ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲3.3で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は37.6%が実施と回答し、前年同期と比べ5.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両・輸送機材」、2位が「付帯施設」「OA機器」（同位）でした。

来期は35.5%が設備投資を計画していると回答しています。

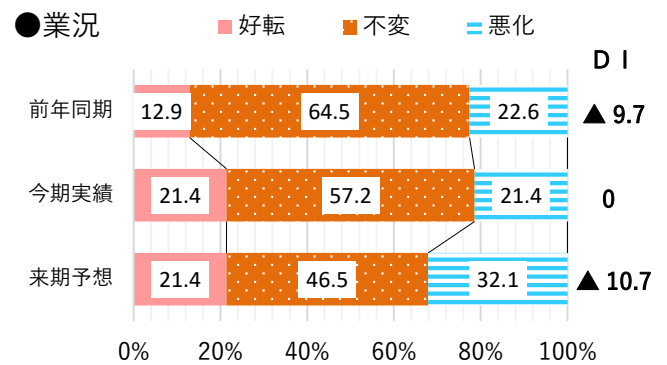


製造業

業況、売上、採算

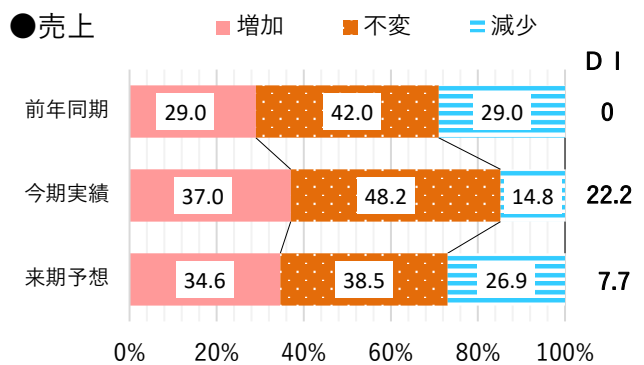
今期（2026.4～6）の業況DIは0で、前年同期（2025.4～6）と比べ9.7ポイント上昇しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲10.7で、今期（2026.4～6）と比べ10.7ポイント低下すると予想しています。



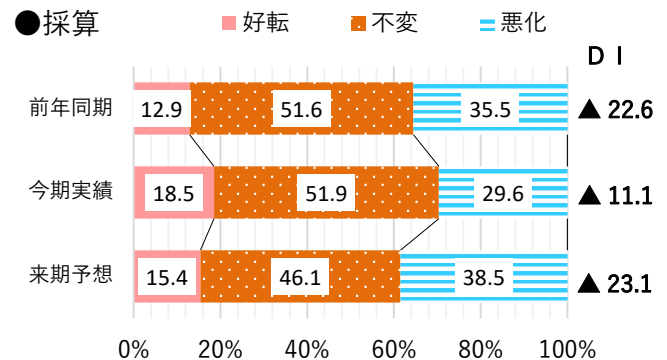
今期の売上DIは22.2で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期の売上DIは7.7で、今期と比べ14.5ポイント低下すると予想しています。

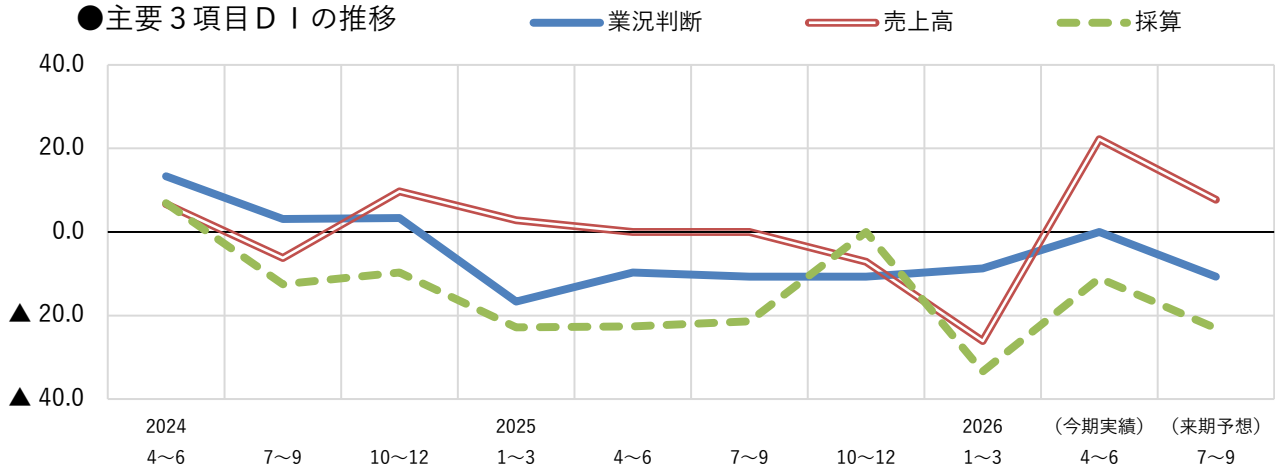


今期の採算DIは▲11.1で、前年同期と比べ11.5ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲23.1で、今期と比べ12.0ポイント低下すると予想しています。



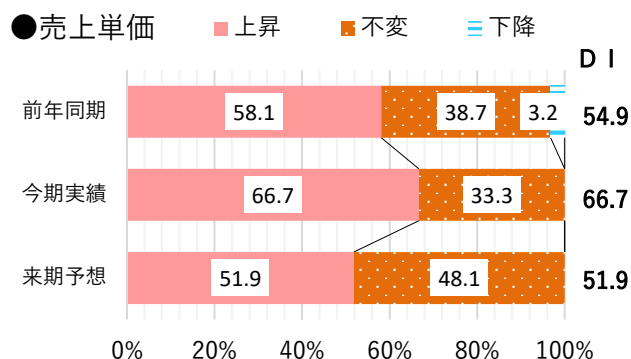
●主要3項目D Iの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

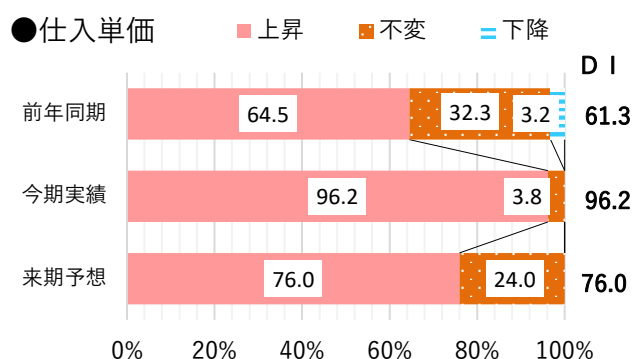
今期の売上単価DIは66.7で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

来期の売上単価DIは51.9で、今期と比べ14.8ポイント低下すると予想しています。



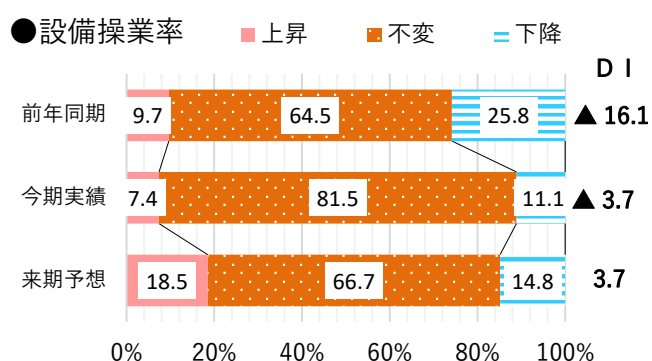
今期の仕入単価DIは96.2で、前年同期と比べ34.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期の仕入単価DIは76.0で、今期と比べ20.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲3.7で、前年同期と比べ12.4ポイント上昇しました。

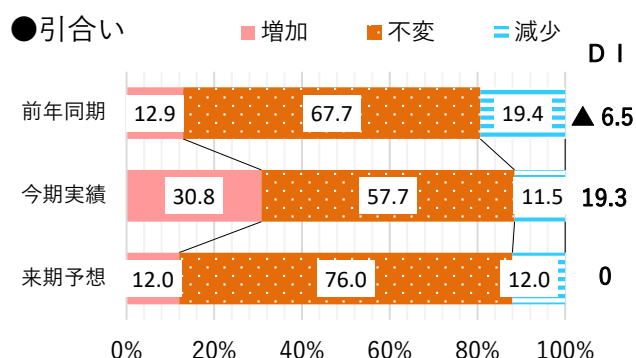
来期の設備操業率DIは3.7で、今期と比べ7.4ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは19.3で、前年同期と比べ25.8ポイント上昇しました。

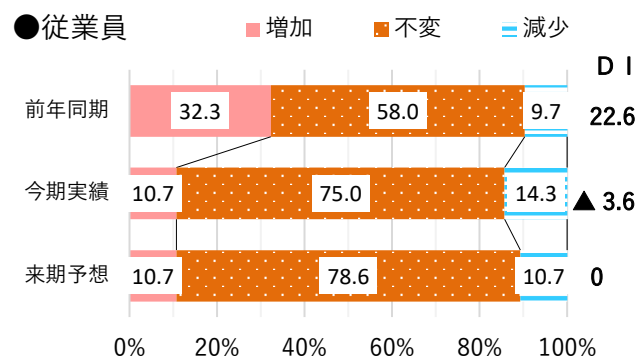
来期の引合いDIは0で、今期と比べ19.3ポイント低下すると予想しています。



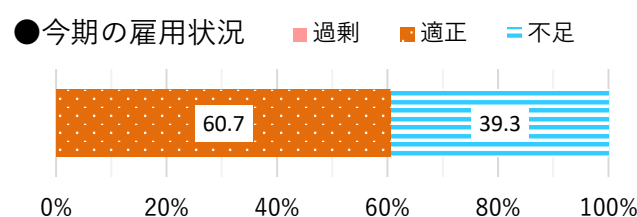
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.6で、前年同期と比べ26.2ポイント低下しました。

来期の従業員DIは0で、今期と比べ3.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.7%、不足していると回答した企業の割合は39.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、46.4%を占めました。

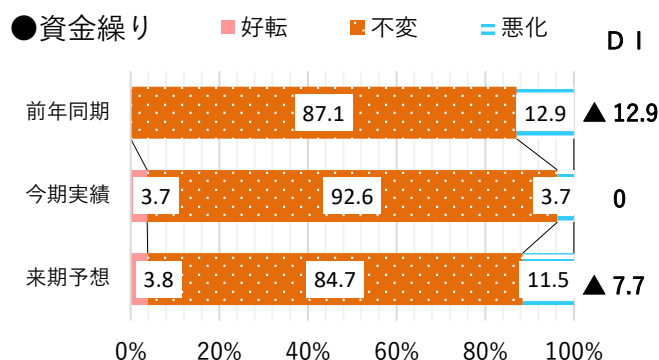
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	3.6%
不変だった	過剰	0%
	適正	46.4%
	不足	28.6%
減少した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	7.1%

回答総数28社

資金繰り、設備投資

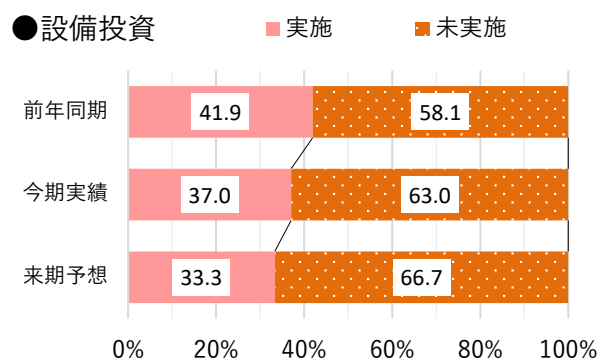
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ12.9ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲7.7で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



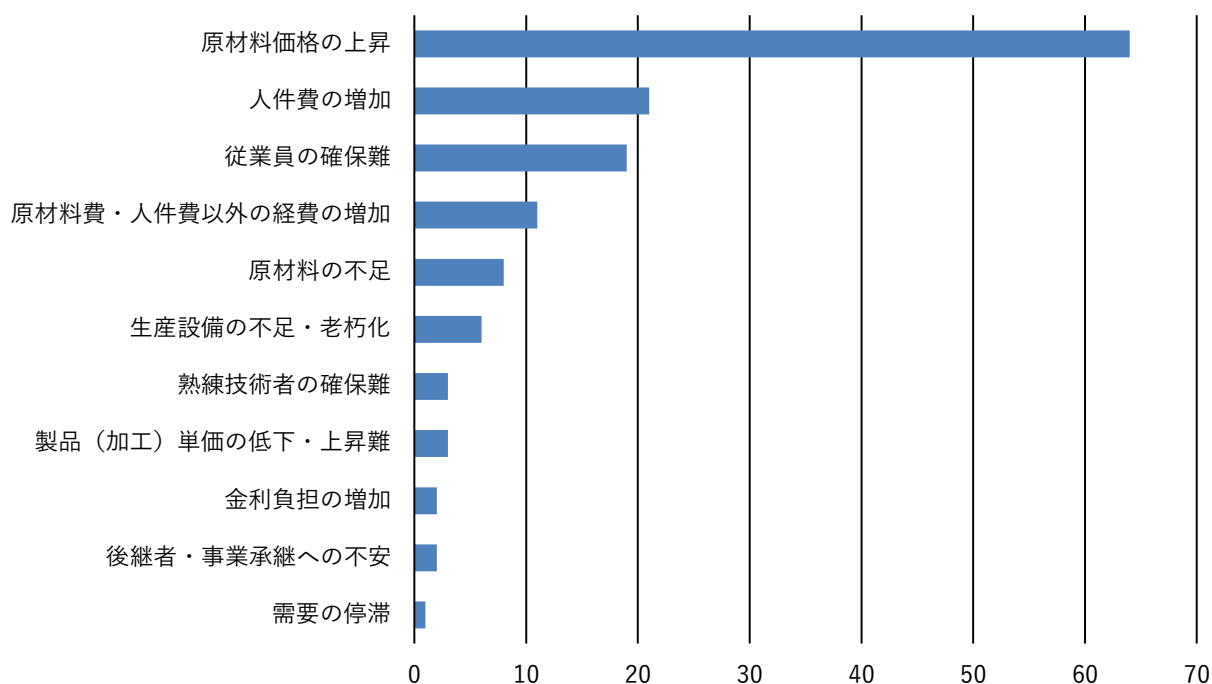
今期の設備投資は37.0%が実施と回答し、前年同期と比べ4.9%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 主原料の仕入価格に合わせた価格転嫁を行ったが上げ幅が大きかったため、出荷量が減少した。（食料品）
- 売上は横ばいだが収益性の高い商品の販路拡大を進めている。（食料品）
- 仕入価格と人件費が上昇し、業況が悪化した。（食料品）
- 売上額が向上し、さらなる利益の追求をする。（食料品）
- 遅れていた複数の大型プロジェクトが動き出した。（金属製品）
- 通常ではない突発的な大きな売り上げがあった。（金属製品）

- 原材料価格が前期比180～200%と急騰し、高値でも安定供給を優先して調達してきたが、製品価格転嫁では原材料分しか吸収できず、労務費・エネルギー・運賃などの上昇分は反映できていない。従業員の高齢化もあり、人材確保の必要性から賃上げも進めているものの、物価上昇には追いつかず、厳しい状況が続いている。（プラスチック）
- 原材料がナフサ由来の為、価格が急激に高騰し購入に制限がかかった。工場の稼働は原材料の輸入量を見ながら行わざるを得ない。納入先からは資材不足の懸念から通常より多く注文が入っている。（プラスチック）
- 原料の仕入価格は上昇しているが、販売価格への転嫁に成功しているため、売上額が増加した。（プラスチック）
- 原材料の仕入価格が高騰している。（紙製品）
- 中東地域からのナフサの供給不足を受けて、工業用ゴム製品における原材料などの仕入単価が上昇しており、長靴部門も仕入値が上昇する中で売上は変わらないので、利益を確保できていない。（ゴム製品）

[来期の業況について]

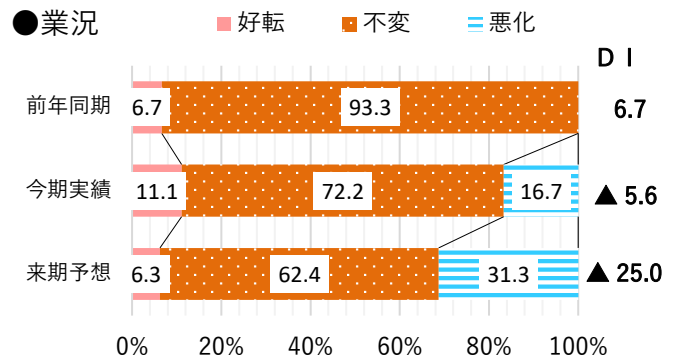
- ナフサを取り巻く状況が改善すると仮受分が納入される分受注が減少し、改善されないと資材不足による工場の停止が予想されるため、どちらに転んでも厳しい状況を見込む。（食料品）
- 仕入れる原材料のすべてが価格上昇しており価格転嫁が必須だが、出荷量の減少が不安である。（食料品）
- 新商品の開発により、収益を確保する見込みである。（食料品）
- 仕入価格と人件費の更なる上昇を見込む。（食料品）
- 7月以降原材料価格が更に上昇することがサプライヤーから表明されているので原材料上昇分は製品価格の追加値上げで対応する。（プラスチック）
- 原料の仕入価格は世界情勢によって上下するため未定だが、価格転嫁を行い一定の利益を確保する予定である。（プラスチック）
- 複数の大型プロジェクトの本格稼働を期待している。（金属製品）
- 副資材等の確保が困難になると予想しているが未確定な部分が多い。（紙製品）
- 原材料の上昇は今後も続くとみられ、賃上げも最低賃金の上昇具合を鑑みながら対応していかないといけない。その中で、売上や利益の確保の見込みが立っていないので、業況の悪化を想定している。（ゴム製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

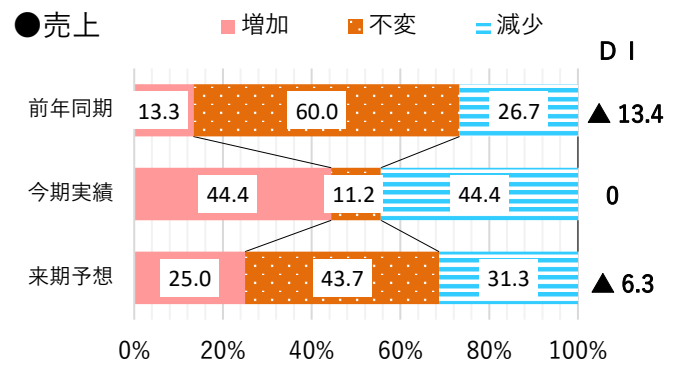
今期（2026.4～6）の業況DIは▲5.6で、前年同期（2025.4～6）と比べ12.3ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲25.0で、今期（2026.4～6）と比べ19.4ポイント低下すると予想しています。



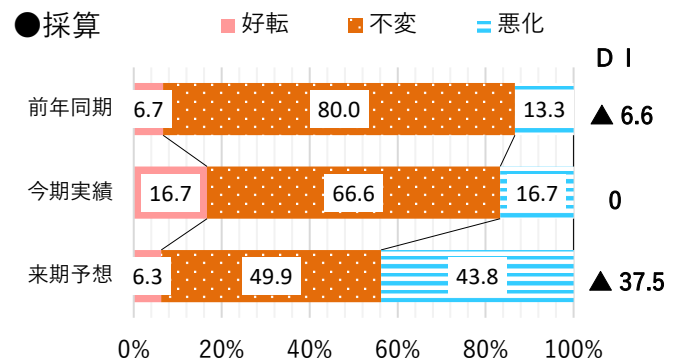
今期の売上DIは0で、前年同期と比べ13.4ポイント上昇しました。

来期の売上DIは▲6.3で、今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。

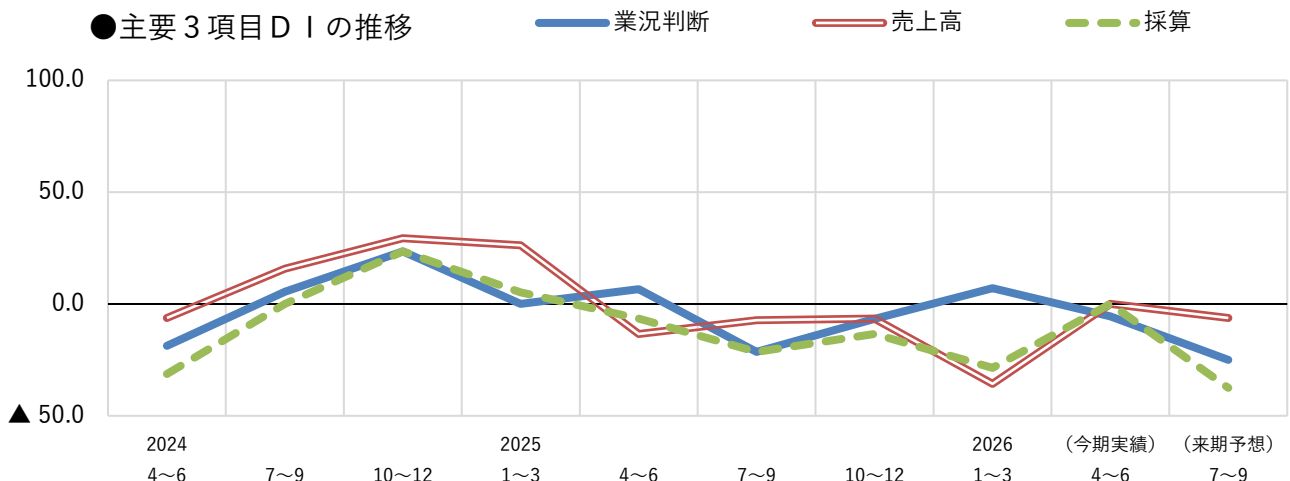


今期の採算DIは0で、前年同期と比べ6.6ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲37.5で、今期と比べ37.5ポイント低下すると予想しています。



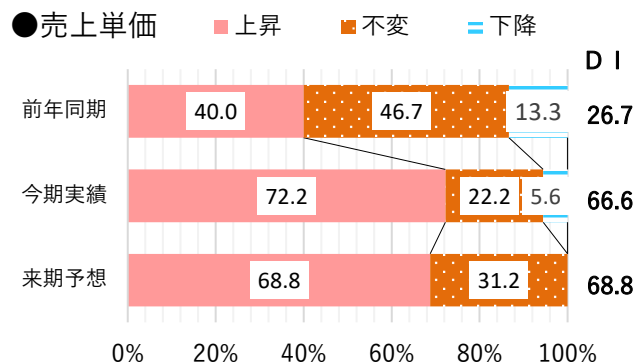
●主要 3 項目 D I の推移



売上単価、商品仕入単価

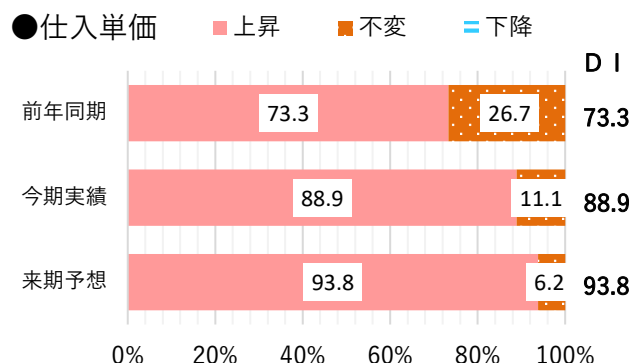
今期の売上単価DIは66.6で、前年同期と比べ39.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期の売上単価DIは68.8で、今期と比べ2.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは88.9で、前年同期と比べ15.6ポイント上昇しました。

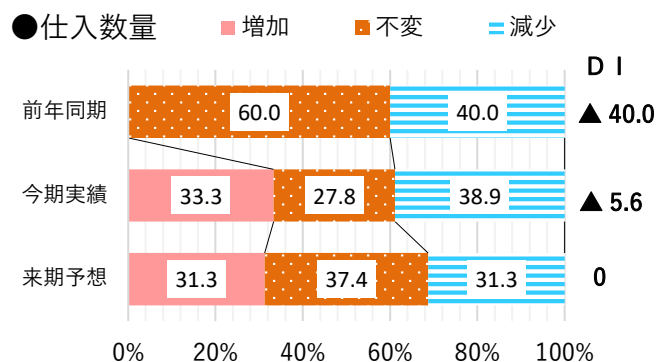
来期の仕入単価DIは93.8で、今期と比べ4.9ポイント上昇すると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

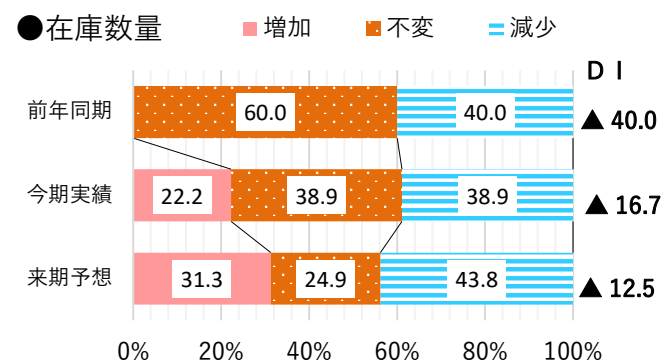
今期の仕入数量DIは▲5.6で、前年同期と比べ34.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期の仕入数量DIは0で、今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲16.7で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇しました。

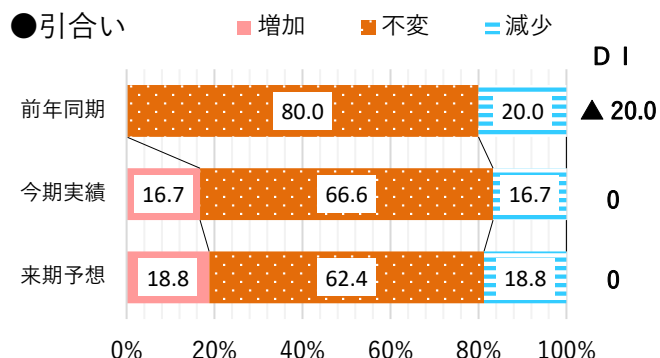
来期の在庫数量DIは▲12.5で、今期と比べ4.2ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

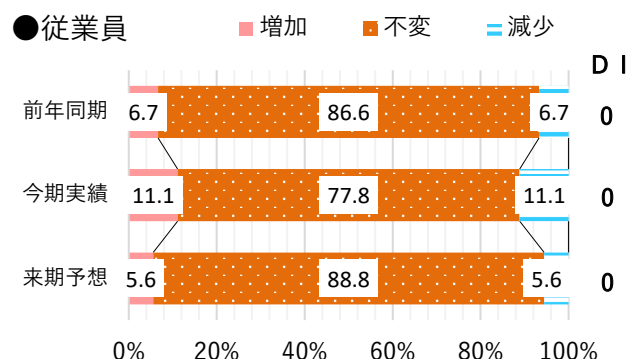
来期の引合いDIは0で、今期と比べ変化なしと予想しています。



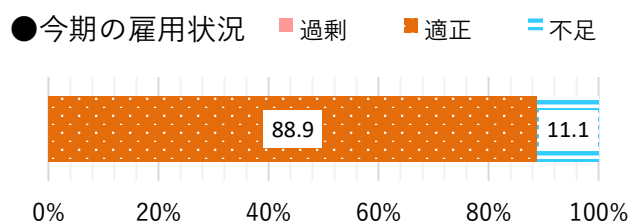
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは0で、今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は88.9%、不足していると回答した企業の割合は11.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、72.2%を占めました。

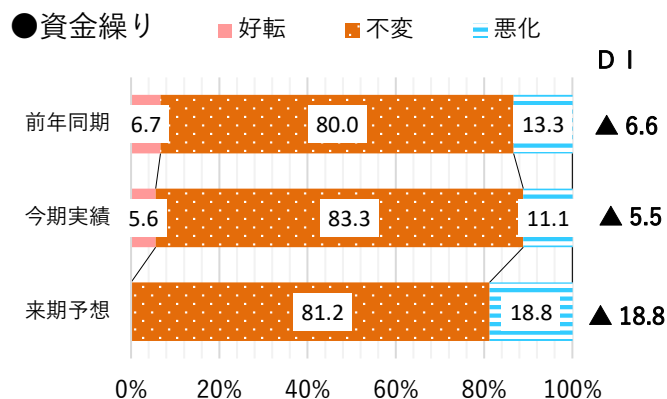
従業員数変化	雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	11.1%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	72.2%
	不足	5.6%
減少した	過剰	0%
	適正	5.6%
	不足	5.6%

※回答総数18社

資金繰り、設備投資

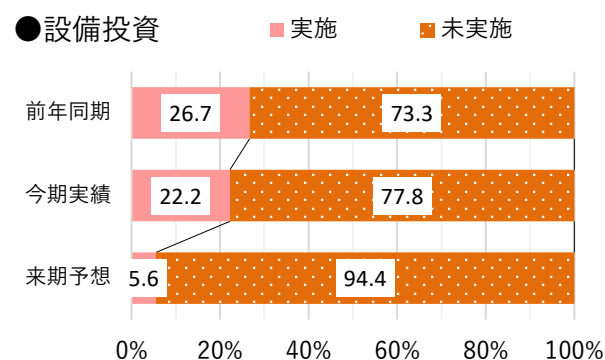
今期の資金繰りDIは▲5.5で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲18.8で、今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



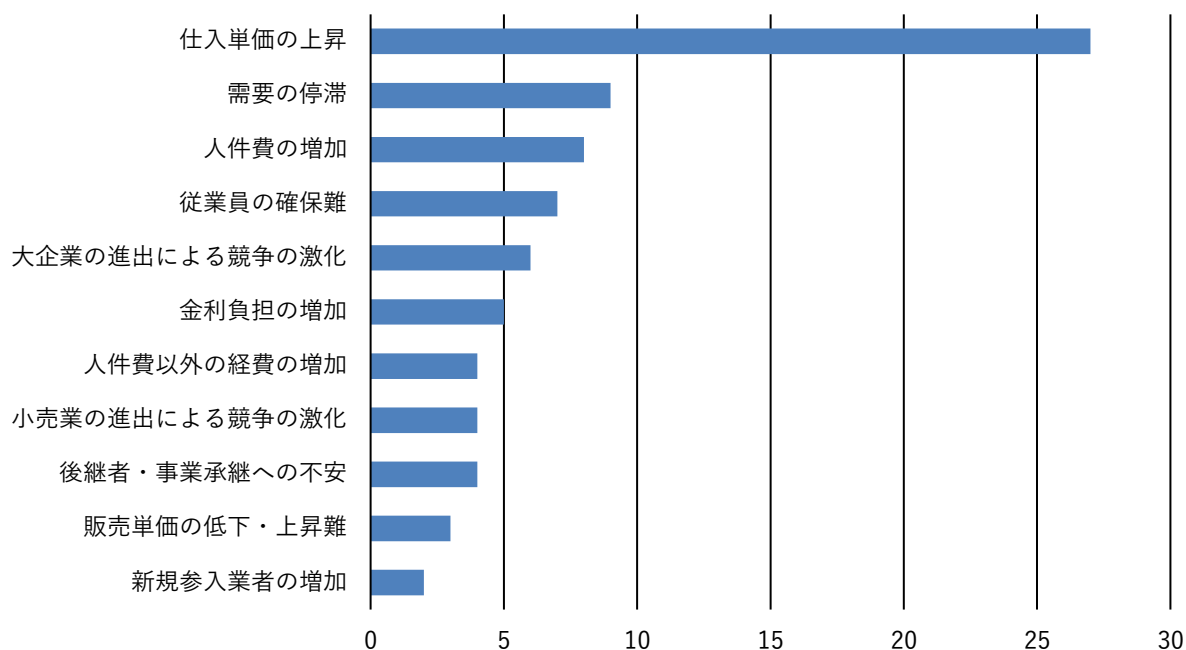
今期の設備投資は22.2%が実施と回答し、前年同期と比べ4.5%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は5.6%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 送料と仕入単価が著しく上昇しており、送料無償の条件も厳しいのでメーカーからの出荷ロットが増加し、在庫の数も増加している。（食料・飲料）
- 仕入単価、人件費の上昇が止まらない。（食料・飲料）
- 中東情勢の緊迫化に伴い石油製品を中心にメーカー各社から値上げ、欠品、出荷制限の案内が届き、値上げの駆け込み需要にも対応できず、苦労している。（建築材料）
- 中東情勢の影響で一時的に注文数は増加したが、価格の上昇、在庫切れ、出荷制限等により厳しい状況である。（包装資材）
- 仕入価格は高いが、販売価格も高いので売上が増加した。（石油卸売）
- ナフサの影響で仕入額が増加したが、売上と利益も共に増加した。（塗料販売）

[来期の業況について]

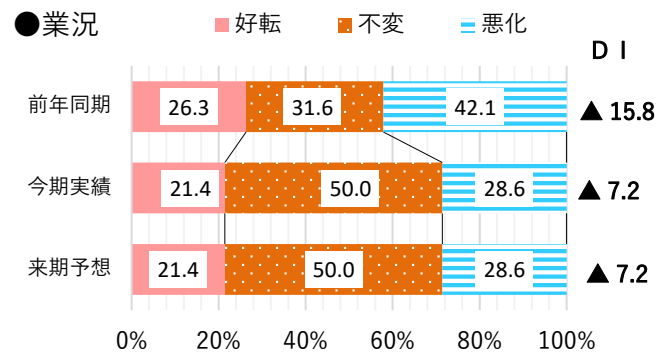
- メーカーからは更なる値上げが案内されているので厳しい状況を見込んでいる。（食料・飲料）
- 予想がつかないくらいひどい業況になると予想している。（食料・飲料）
- 中途情勢が落ち着くまで多数の建築商品の流通の滞りと一部商品の欠品により、工期に遅れが生じる現場が多くなると見込んでいる。また、大幅な値上げによる需要の停滞も心配している。（建築材料）
- 新幹線需要は減少するが、泊発電所向け資材の出荷の増加が見込まれる。（建築材料）
- 中東情勢の影響で値上げ率が高いので、買い控え等の発生が予測される。（包装資材）
- 品不足が落ち着いてきたので在庫を減らす予定である。（塗料販売）

小 売 業

業況、売上、採算

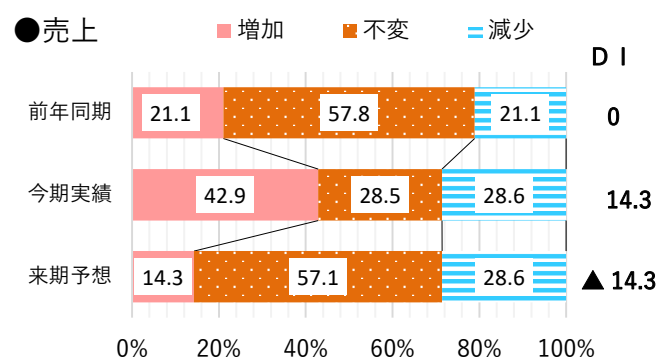
今期（2026.4～6）の業況DIは▲7.2で、前年同期（2025.4～6）と比べ8.6ポイント上昇しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲7.2で、今期（2026.4～6）と比べ変化なしと予想しています。



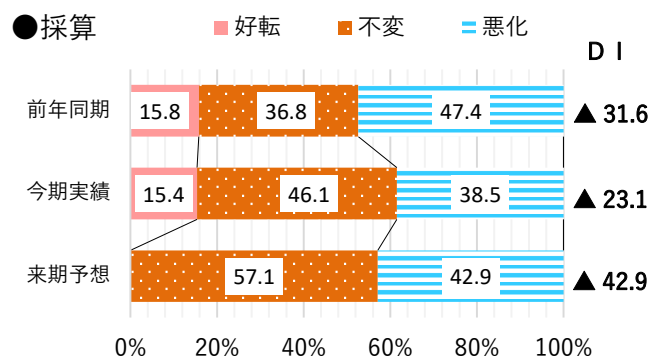
今期の売上DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは▲14.3で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。

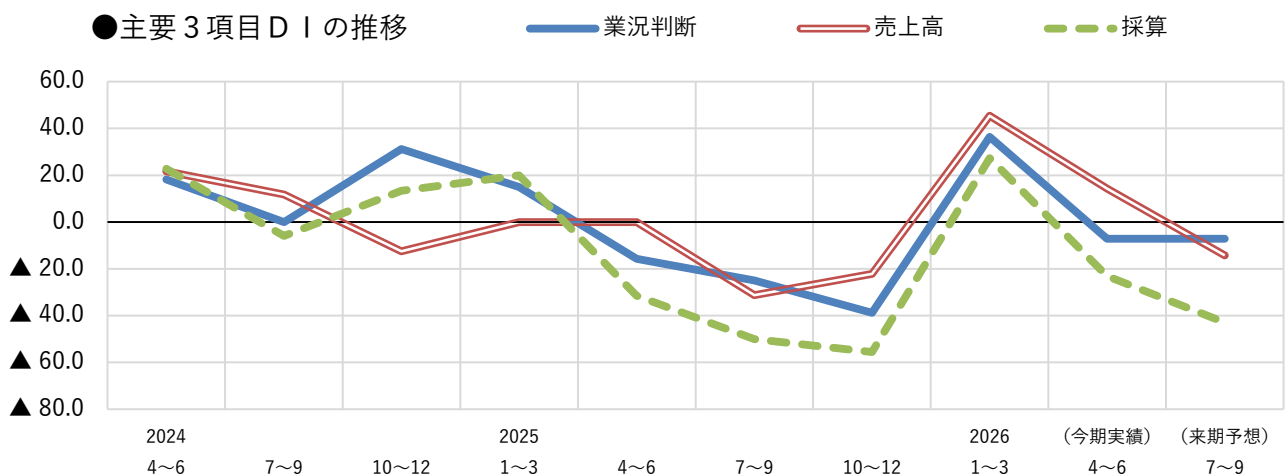


今期の採算DIは▲23.1で、前年同期と比べ8.5ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲42.9で、今期と比べ19.8ポイント低下すると予想しています。



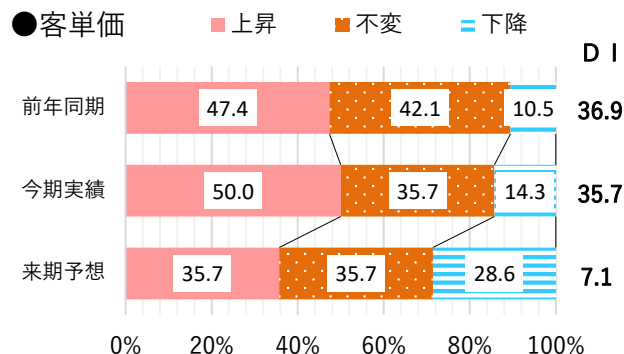
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

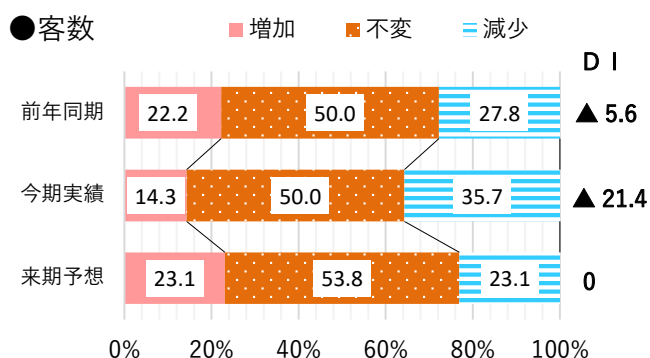
今期の客単価DIは35.7で、前年同期と比べ1.2ポイント低下しました。

来期の客単価DIは7.1で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲21.4で、前年同期と比べ15.8ポイント低下しました。

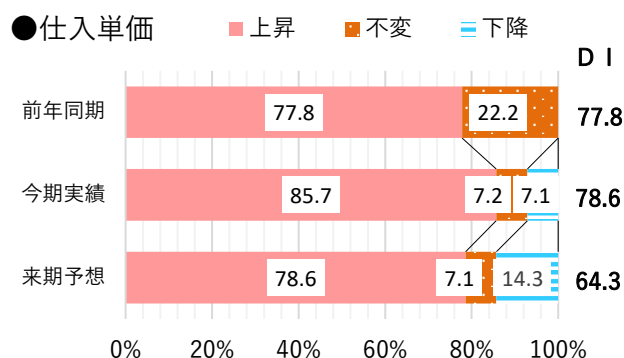
来期の客数DIは0で、今期と比べ21.4ポイント上昇すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

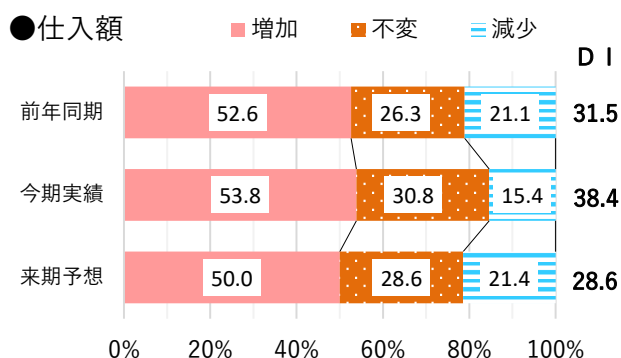
今期の仕入単価DIは78.6で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

来期の仕入単価DIは64.3で、今期と比べ14.3ポイント低下すると予想しています。



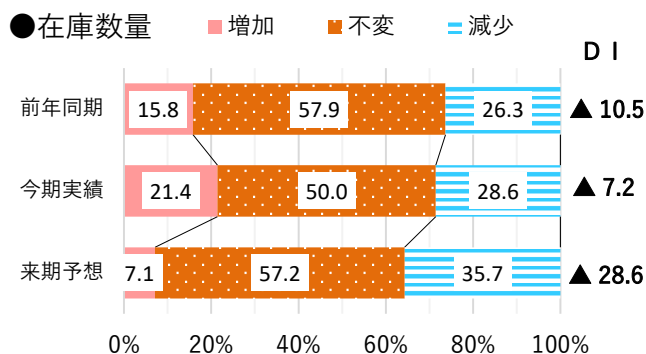
今期の仕入額DIは38.4で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期の仕入額DIは28.6で、今期と比べ9.8ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲7.2で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

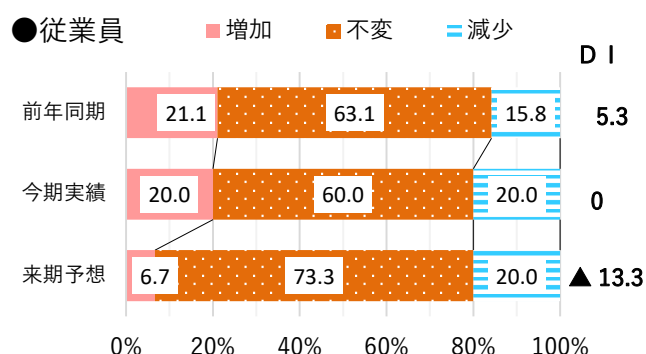
来期の在庫数量DIは▲28.6で、今期と比べ21.4ポイント低下すると予想しています。



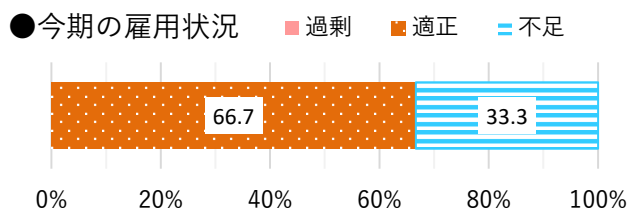
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ5.3ポイント低下しました。

来期の従業員DIは▲13.3で、今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は66.7%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、46.7%を占めました。

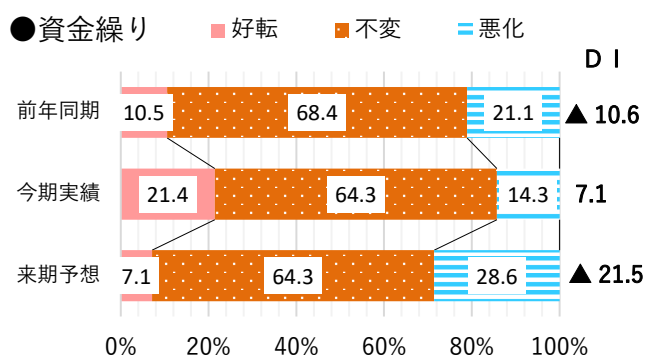
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.3%
	不足	6.7%
不変だった	過剰	0%
	適正	46.7%
	不足	13.3%
減少した	過剰	0%
	適正	6.7%
	不足	13.3%

※回答総数15社

資金繰り、設備投資

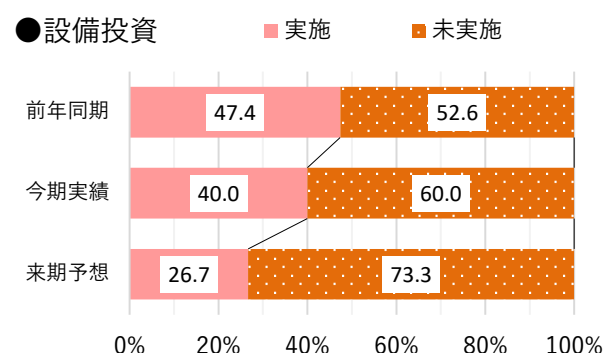
今期の資金繰りDIは7.1で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲21.5で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。



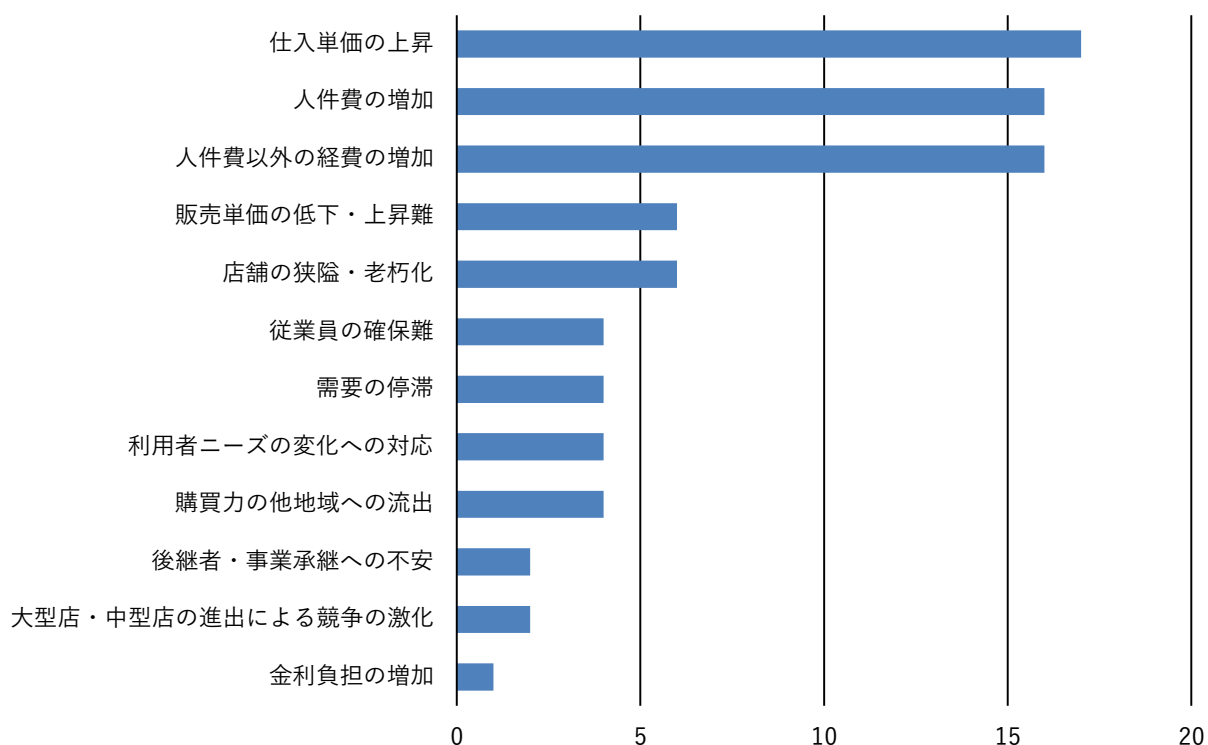
今期の設備投資は40.0%が実施と回答し、前年同期と比べ7.4%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」でした。

来期は26.7%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 商品原料の高騰、従業員の高齢化、人件費確保等の諸問題に向けた効率重視の業務改革を推進している。
(大型店)
- 利用客数が減少したため売上額も減少した。(大型店)
- 気温が例年より早く上昇したことで園芸関連とナフサ関連の需要が伸びたが、5月中旬以降は品薄の影響で勢いが鈍化している。(ホームセンター)
- ナフサ不足の影響で納品未定の品物が出始めてきており、仕入値も上昇している。(食料品小売)
- 観光業が好調で、商品単価の上昇もあったので業況が好転した。(食料品小売)
- 包装資材の高騰と不足を心配している。(菓子製造小売)
- 石油由来の原料の仕入価格が上昇傾向にあり、今後タイヤの価格も上昇する見込み。(自動車小売)
- 人材確保が課題である。(自動車小売)

[来期の業況について]

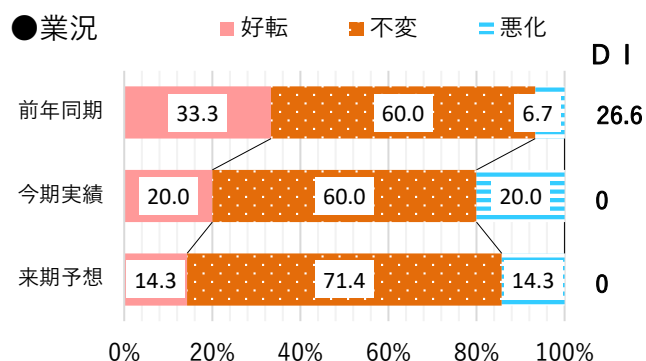
- 去年と同様に気温が上がれば夏物が伸びる、プレミアム付商品券も追い風になると予想している。一方で、外国人の建材バブルのような現象は止まったと思われる。(ホームセンター)
- 仕入原価の上昇で収益の減少を見込む。(食肉小売)
- 商品単価の低下と同時に価格競争が起こると見込んでいる。(食料品小売)
- 包装資材の納品が不安定なことから商品の納品の予定が全く立たない状態になっている。(菓子製造小売)
- 来期は主力部品のマイナーチェンジが予定されているので性能等に期待している。(自動車小売)
- 中東情勢により予測ができない。(燃料小売)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

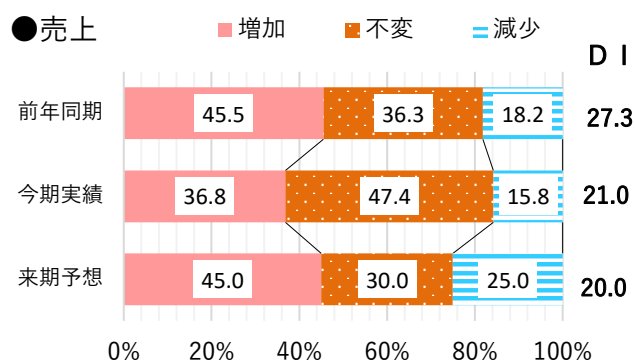
今期（2026.4～6）の業況DIは0で、前年同期（2025.4～6）と比べ26.6ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは0で、今期（2026.4～6）と比べ変化なしと予想しています。



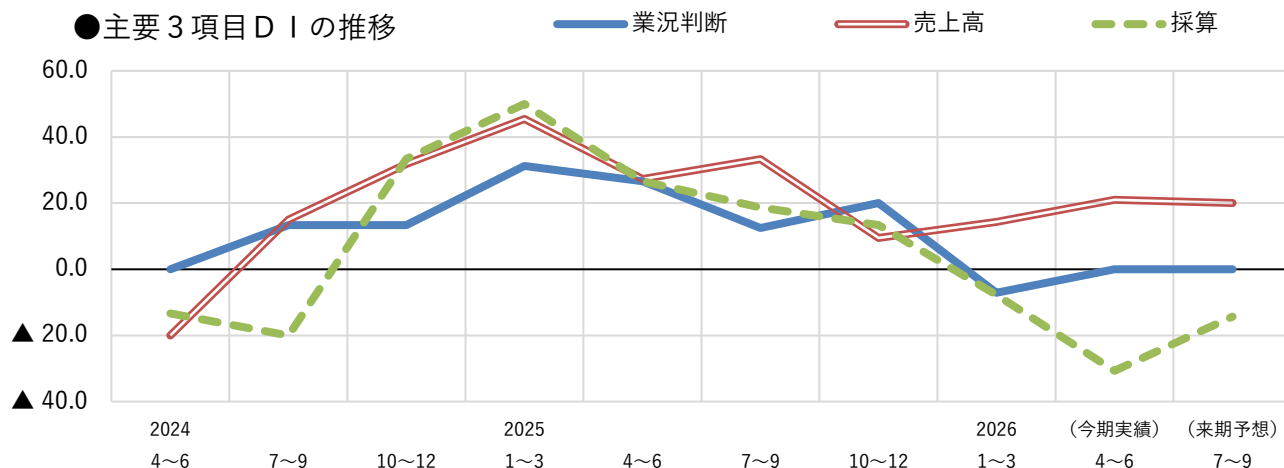
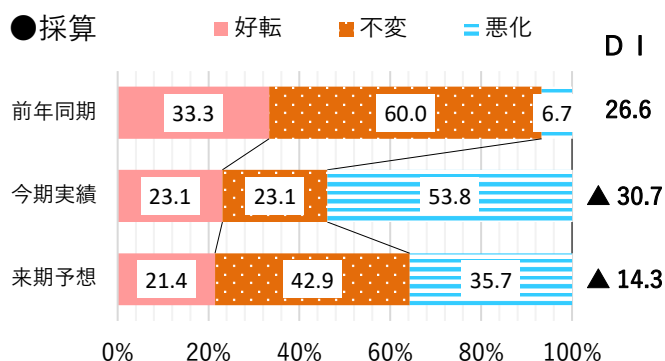
今期の売上高DIは21.0で、前年同期と比べ6.3ポイント低下しました。

来期の売上高DIは20.0で、今期と比べ1.0ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲30.7で、前年同期と比べ57.3ポイントと大幅に低下しました。

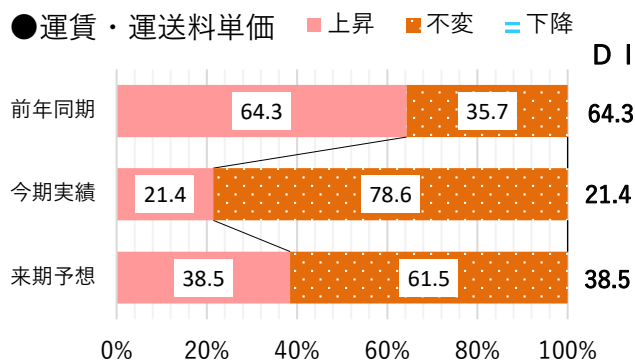
来期の採算DIは▲14.3で、今期と比べ16.4ポイント上昇すると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

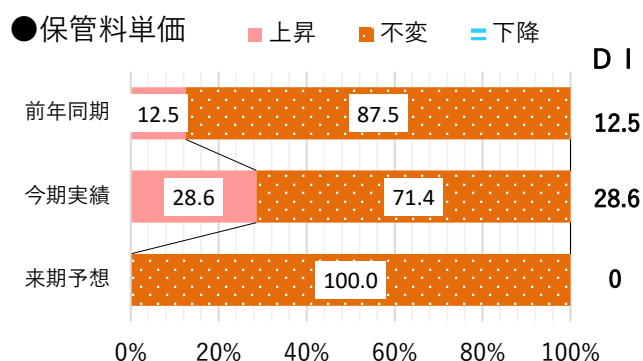
今期の運賃・運送料単価DIは21.4で、前年同期と比べ42.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の運賃・運送料単価DIは38.5で、今期と比べ17.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管料単価DIは28.6で、前年同期と比べ16.1ポイント上昇しました。

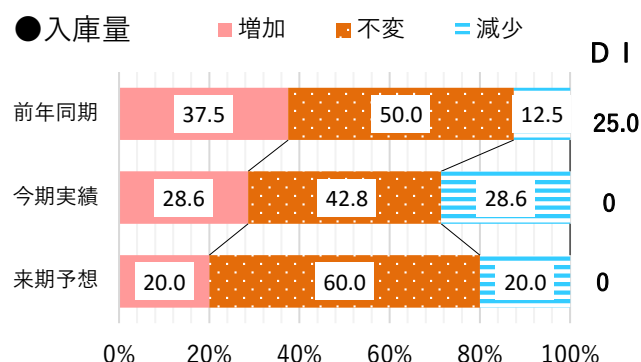
来期の保管料単価DIは0で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

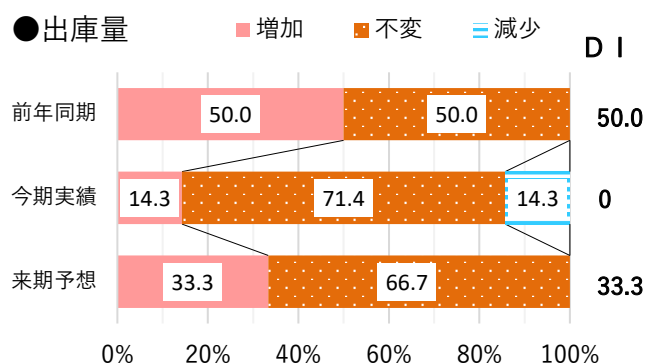
今期の入庫量DIは0で、前年同期と比べ25.0ポイント低下しました。

来期の入庫量DIは0で、今期と比べ変化なしと予想しています。



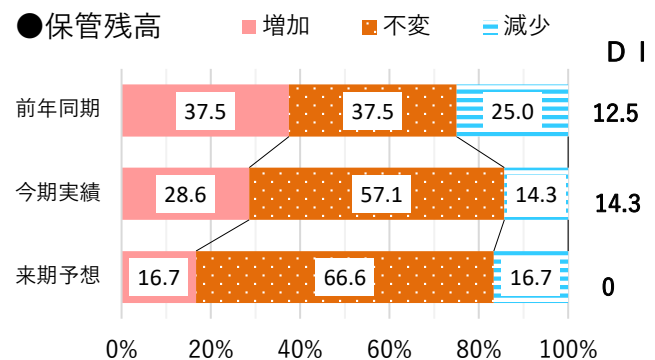
今期の出庫量DIは0で、前年同期と比べ50.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の出庫量DIは33.3で、今期と比べ33.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管残高DIは14.3で、前年同期と比べ1.8ポイント上昇しました。

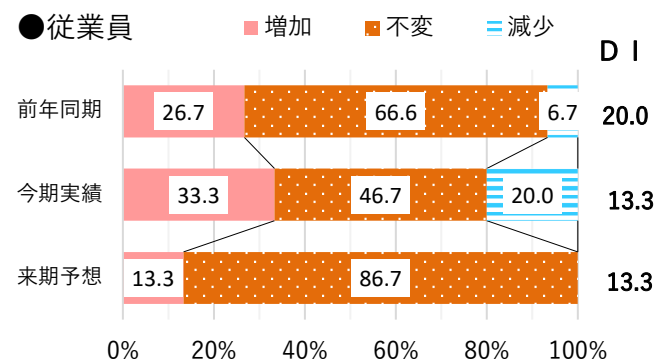
来期の保管残高DIは0で、今期と比べ14.3ポイント低下すると予想しています。



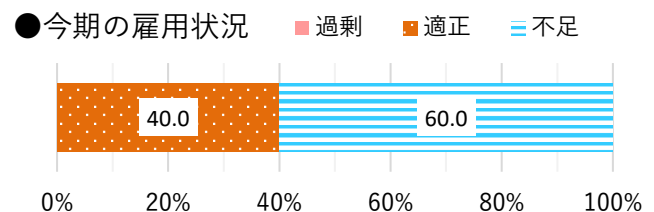
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.3で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは13.3で、今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0%、不足していると回答した企業の割合は60.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、26.7%を占めました。

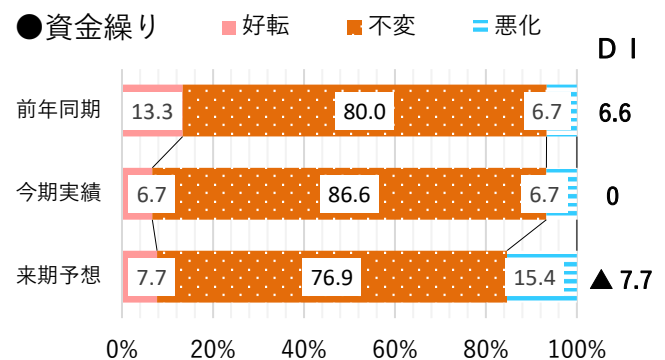
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.3%
	不足	20.0%
不変だった	過剰	0%
	適正	26.7%
	不足	20.0%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	20.0%

※回答総数15社

資金繰り、設備投資

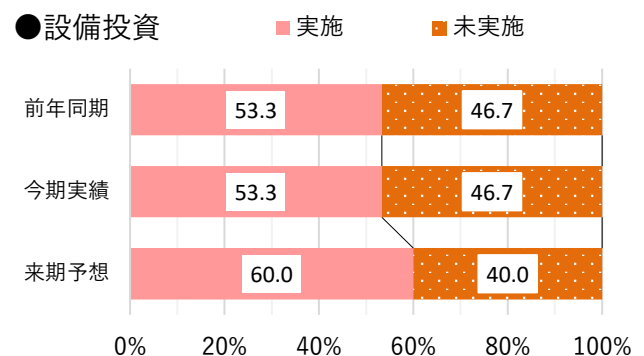
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは▲7.7で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



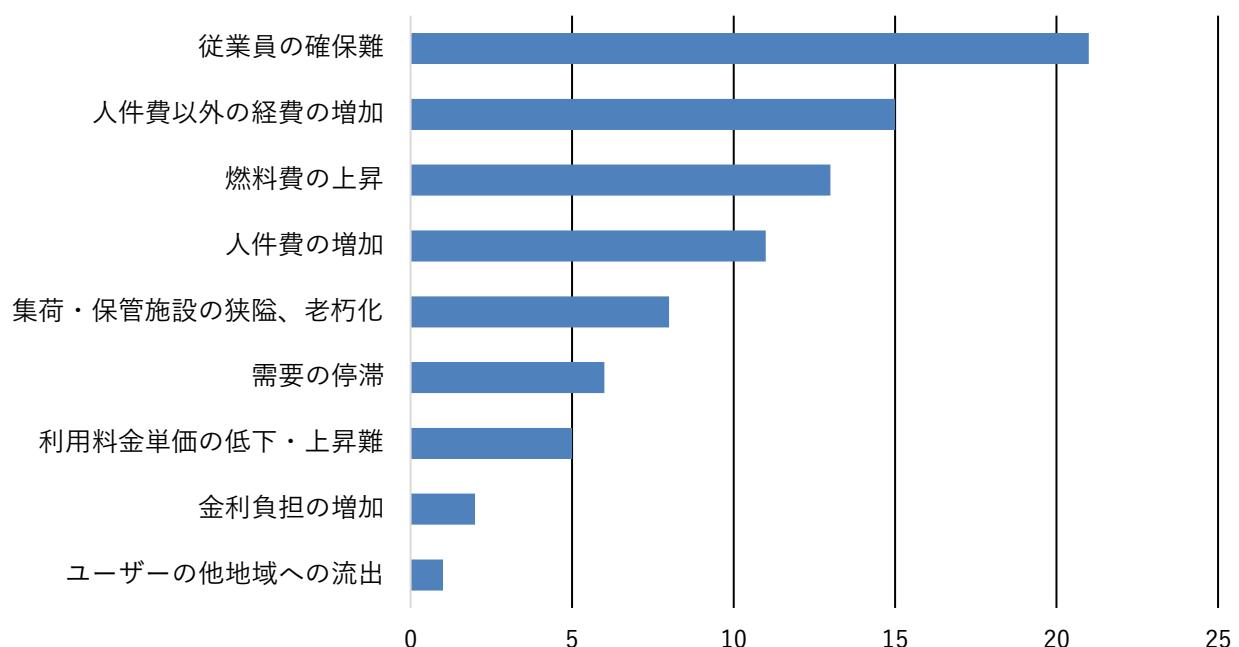
今期の設備投資は53.3%が実施と回答し、前年同期と比べ変化なしでした。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「その他」でした。

来期は60.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「燃料費の上昇」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上単価は上昇したが、燃料、人件費、その他経費の上昇、地域内消費活動の停滞により利益計上できない。（道路旅客運送）
- 輸送量の増加により売上も増加したが原材料の高騰で相殺され、業況は不変となった。（道路貨物運送）
- 燃料代、修理代、資材価格、輸送機器価格が上昇したため業況が悪化した。（道路貨物運送）
- 売上は増加したが、人件費や備品、関係先の会費などのコストが増加し採算は悪化した。（港湾運送）
- 昨年の猛暑による農産品の生育不足、収穫量減少により今期はじゃがいもや玉葱等の備蓄量が底を尽き、本州向けの出荷が大幅に停滞した。また、中東情勢の影響で原油価格の上昇と物価高により本州から北海道への移入貨物も低調である。（水運）
- 入庫量の増加に伴い売上額も増加した。（倉庫）

[来期の業況について]

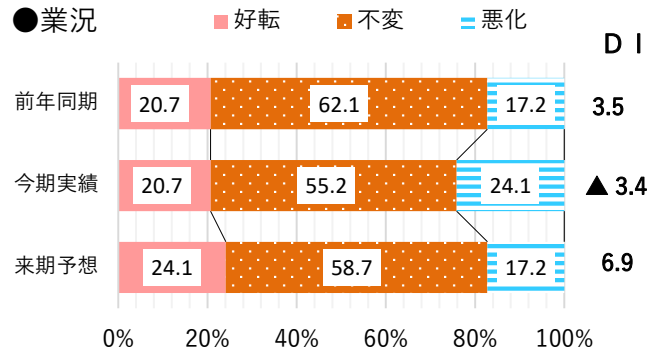
- 物価高騰の影響により利用客の財布の紐がきつく、人の動きが悪いが、量より質への移行や運賃値上げにより、それをカバーする働きかけを行っていく。（水運）
- 入庫量の減少を予想する。（倉庫）

観光業

業況、売上、採算

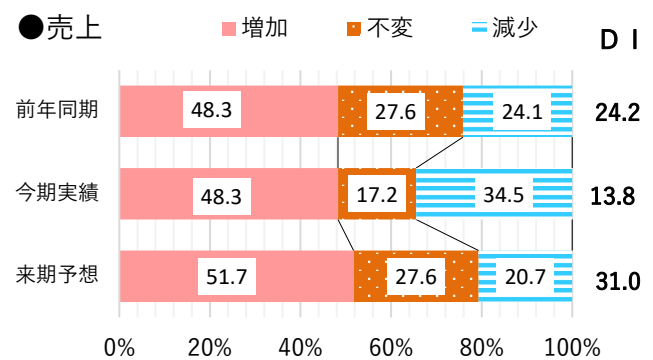
今期（2026.4～6）の業況DIは
▲3.4で、前年同期（2025.4～6）と
比べ6.9ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは6.9
で、今期（2026.4～6）と比べ10.3ポ
イント上昇すると予想しています。



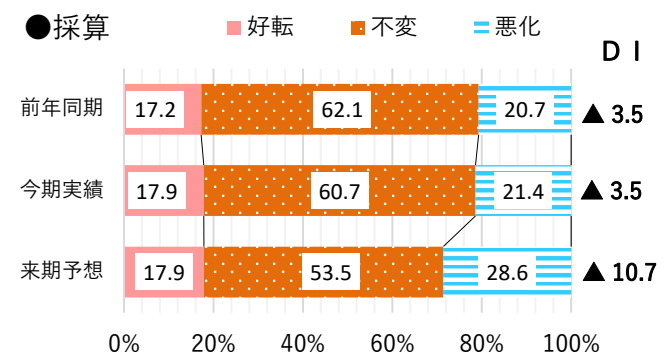
今期の売上DIは13.8で、前年同期と比べ
10.4ポイント低下しました。

来期の売上DIは31.0で、今期と比べ17.2
ポイント上昇すると予想しています。

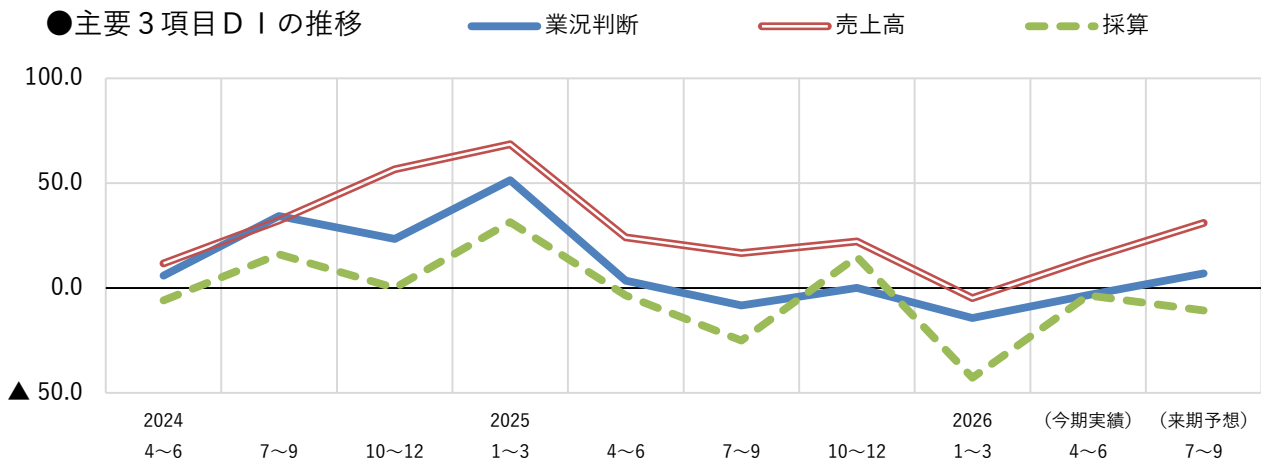


今期の採算DIは▲3.5で、前年同期と比
べ変化なしとなりました。

来期の採算DIは▲10.7で、今期と比べ
7.2ポイント低下すると予想しています。



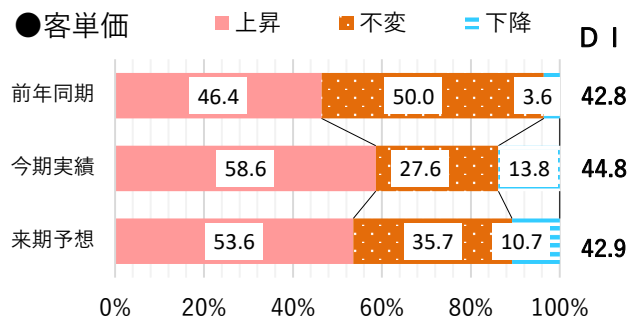
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

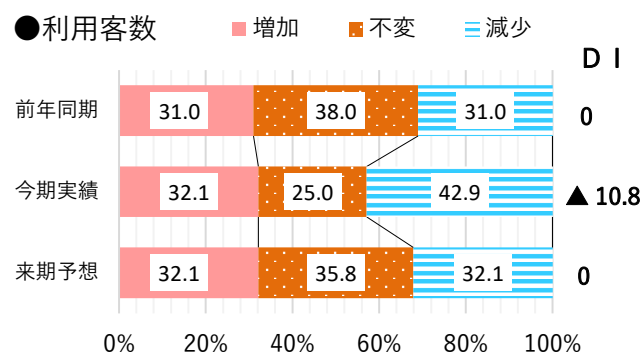
今期の客単価DIは44.8で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは42.9で、今期と比べ1.9ポイント低下すると予想しています。



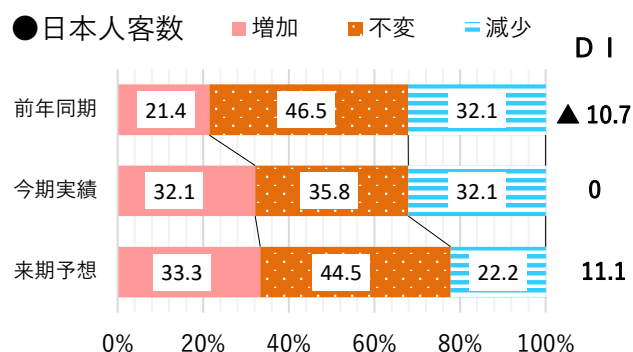
今期の利用客数DIは▲10.8で、前年同期と比べ10.8ポイント低下しました。

来期の利用客数DIは0で、今期と比べ10.8ポイント上昇すると予想しています。



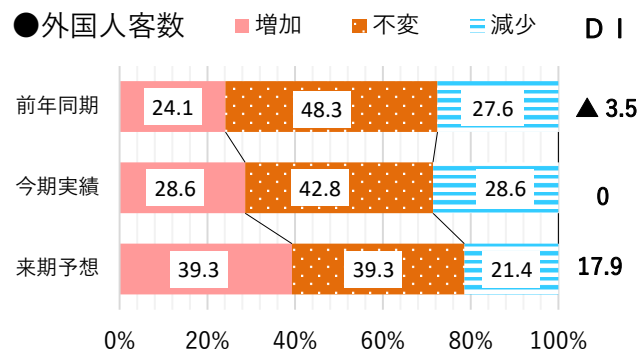
今期の日本人客数DIは0で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは11.1で、今期と比べ11.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは0で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

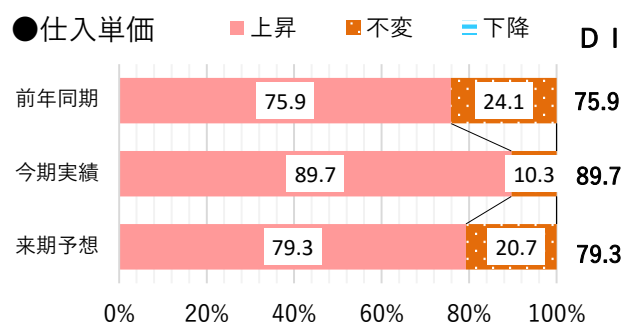
来期の外国人客数DIは17.9で、今期と比べ17.9ポイント上昇すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは89.7で、前年同期と比べ13.8ポイント上昇しました。

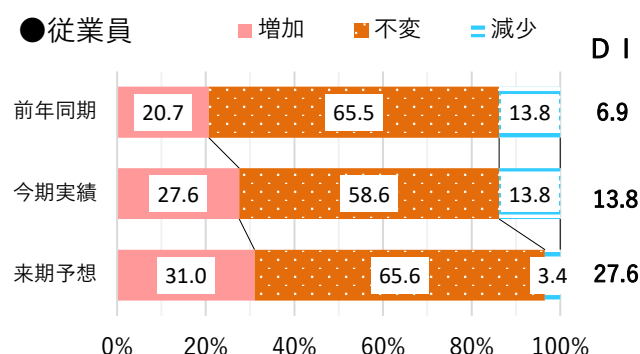
来期の仕入単価DIは79.3で、今期と比べ10.4ポイント低下すると予想しています。



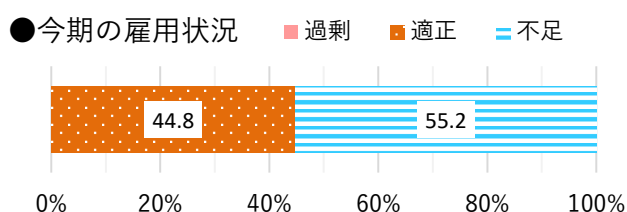
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.8で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは27.6で、今期と比べ13.8ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は44.8%、不足していると回答した企業の割合は55.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、31.0%を占めました。

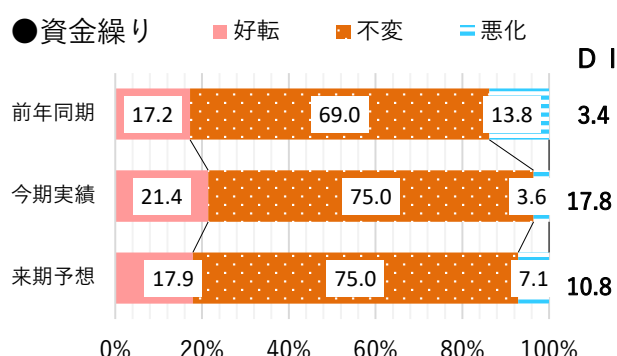
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.8%
	不足	13.8%
不変だった	過剰	0%
	適正	31.0%
	不足	27.6%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	13.8%

※回答総数29社

資金繰り、設備投資

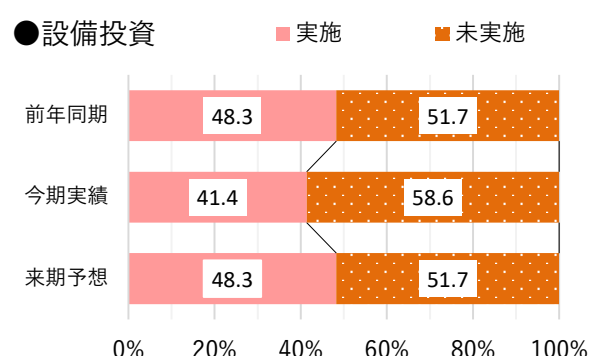
今期の資金繰りDIは17.8で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは10.8で、今期と比べ7.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は41.4%が実施と回答し、前年同期と比べ6.9%低下しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「建物」「OA機器」（同位）でした。

来期は48.3%が設備投資を計画していると回答しています。

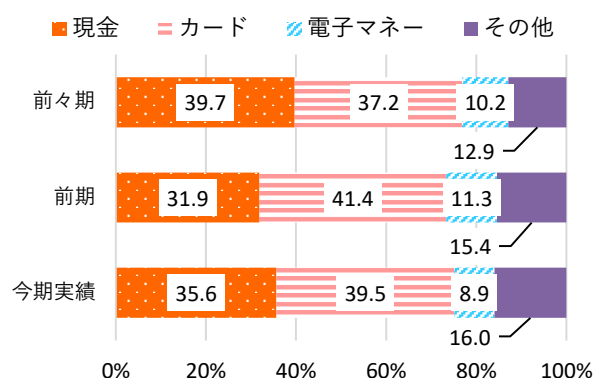


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで39.5%、2位が現金で35.6%、3位がその他で16.0%、4位が電子マネーで8.9%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、旅行会社、ネットサイト、売掛金、銀行振込、クーポンの利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

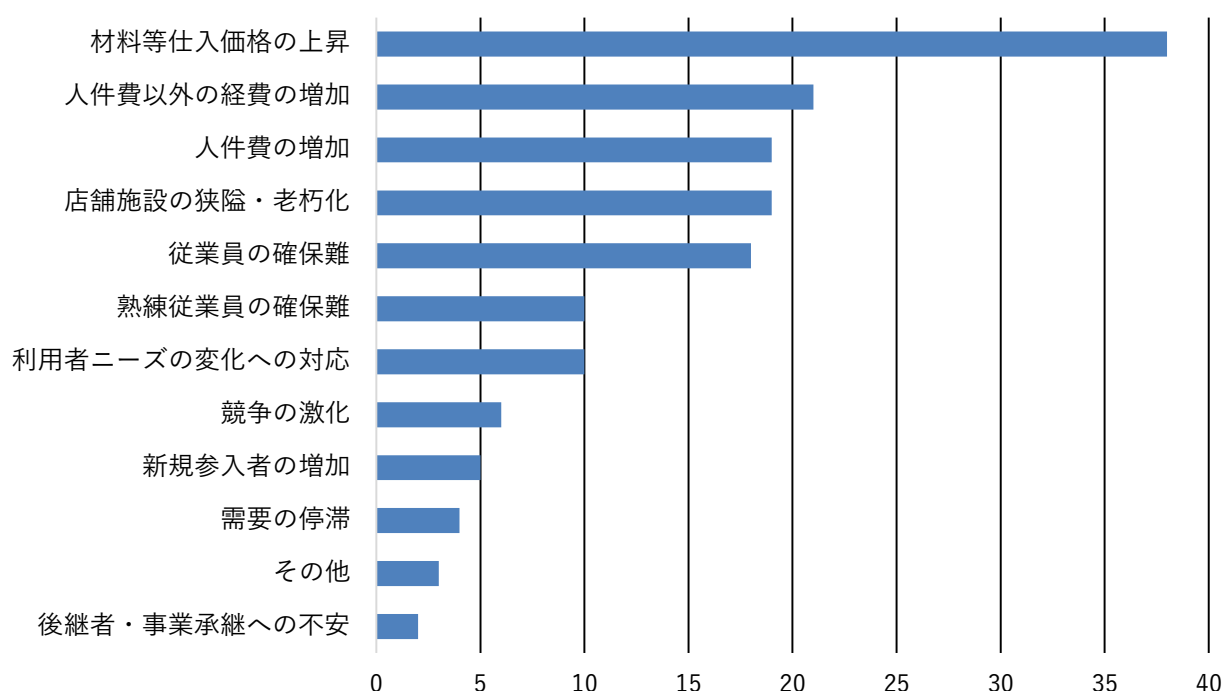


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は57.84%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 国内の利用客数が海外の利用客数に比べて約2倍増加した。(飲食)
- 中国系観光客の減少が見られた。(飲食)
- 中東情勢の影響で外国人観光客の大幅な減少を見込んでいたが、ほぼ不変で外国人観光客への売上を確保できた。対して日本人観光客は相変わらず多くなく、原材料高騰の影響もあり、売上単価の上昇があれども採算はギリギリであった。人手不足は続いているが、最悪期と比べると募集への応募に手応えがある。
(土産品)
- 団体観光中心の中国客が減少した穴を個人客が埋めた結果、人の流れが良くなった。(土産品)
- 販売商品の単価上昇もあり、売上は増加している。(土産品)
- 食材、資材、日用品の値上げが大きく、価格転嫁しても採算が取れない。(ホテル)
- 観光需要の増加と自社の努力もあり業況が好転した。(ホテル)
- 客室稼働率が減少し、売上に影響が出た。(コテージ・ペンション)
- GWの天候が前年同期と比較して悪かったので売上と客数がともに減少した。(水運業)
- 利益は前年並だが各種費用の上昇及び人件費増等によりコストが上昇し、業況が若干悪化した。
(娯楽業)

[来期の業況について]

- 外国人観光客数は堅調に推移し、売上の確保を見込んでいるが、原材料の値上げが年内は続くと思うので、採算の好転は難しいと予想している。外国人社員から一定の応募があるので今後の人手不足解消に期待している。(土産品)

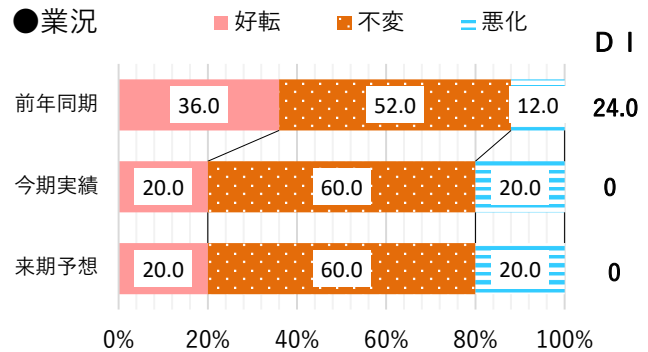
- 本格的な観光シーズンに突入するため業況の更なる好転を予想する。（土産品）
- 観光シーズンに入ったので売上の増加を見込む。（土産品）
- 競合他社の新規出店等もあって売上の減少を見込む。（ホテル）
- この状況が続くと代替品も買えなくなる恐れがある。（ホテル）
- 売上を上昇できるよう努力するつもりである。（ホテル）
- 客室稼働率と客単価の減少を予想する。（コテージ・ペンション）
- 売上、客数が最も多い時期なので、業況の好転を見込む。（水運業）
- 費用の上昇の影響が続くため業況の好転は期待できない。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

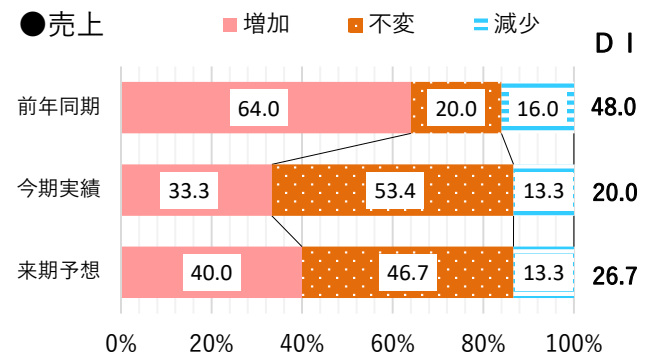
今期（2026.4～6）の業況DIは0で、前年同期（2025.4～6）と比べ24.0ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは0で、今期（2026.4～6）と比べ変化なしと予想しています。



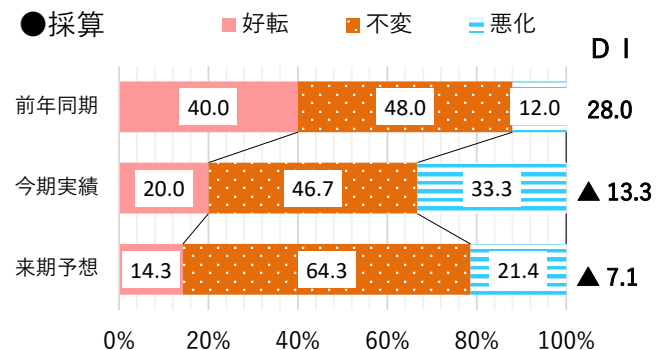
今期の売上DIは20.0で、前年同期と比べ28.0ポイント低下しました。

来期の売上DIは26.7で、今期と比べ6.7ポイント上昇すると予想しています。

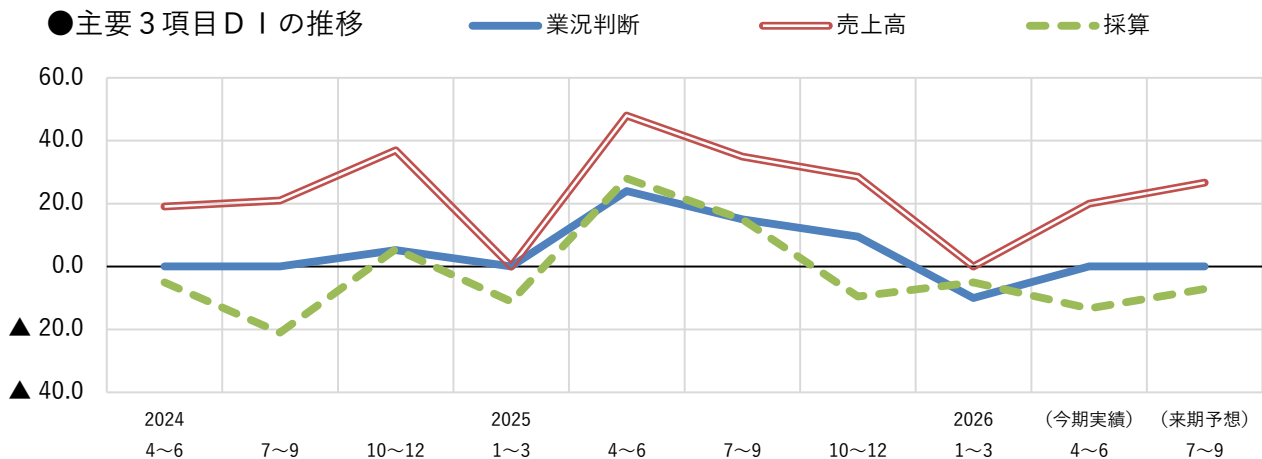


今期の採算DIは▲13.3で、前年同期と比べ41.3ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは▲7.1で、今期と比べ6.2ポイント上昇すると予想しています。



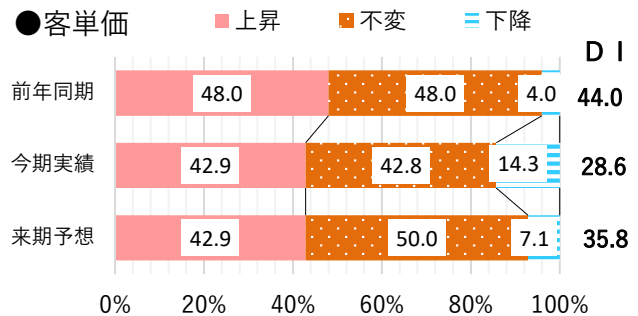
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、仕入単価

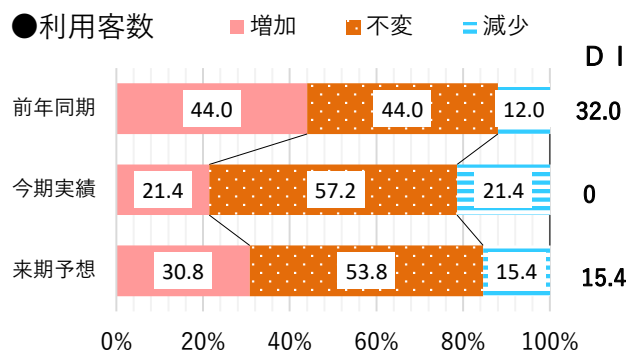
今期の客単価DIは28.6で、前年同期と比べ15.4ポイント低下しました。

来期の客単価DIは35.8で、今期と比べ7.2ポイント上昇すると予想しています。



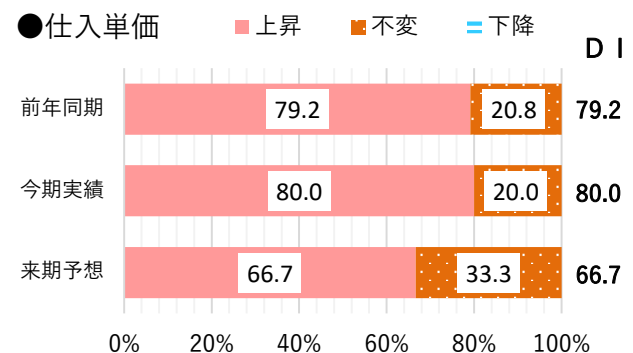
今期の利用客数DIは0で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは15.4で、今期と比べ15.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは80.0で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

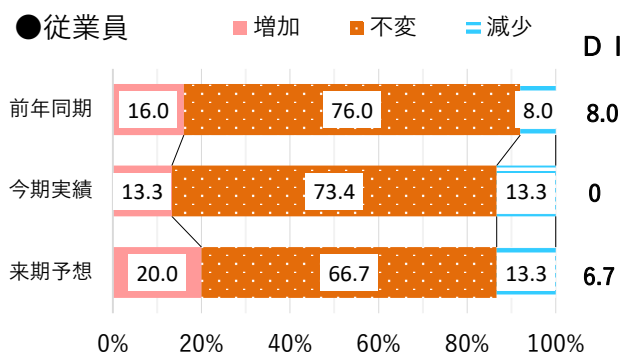
来期の仕入単価DIは66.7で、今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

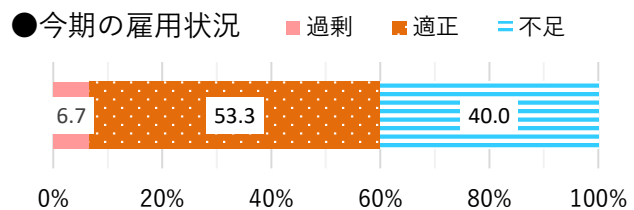
今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ8.0ポイント低下しました。

来期の従業員DIは6.7で、今期と比べ6.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は6.7%、適正であると回答した企業の割合は53.3%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.0%を占めました。



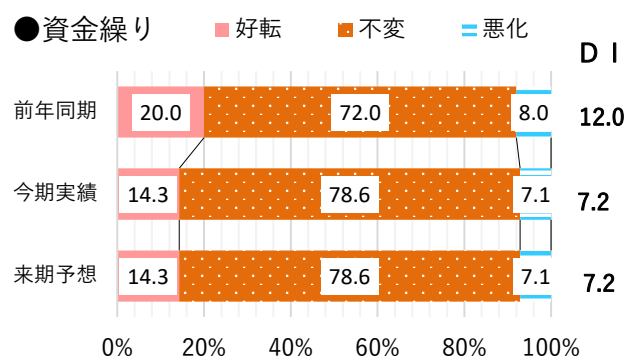
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.3%
	不足	0%
不変だった	過剰	6.7%
	適正	40.0%
	不足	26.7%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	13.3%

※回答総数15社

資金繰り、設備投資

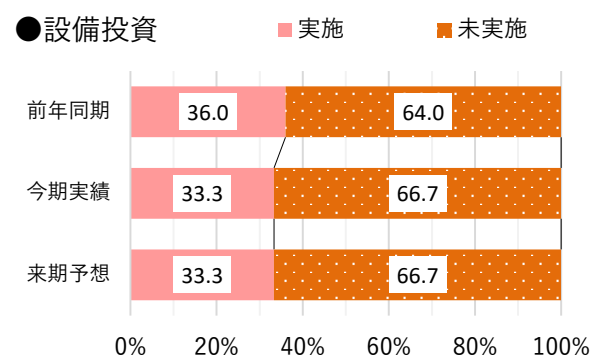
今期の資金繰りDIは7.2で、前年同期と比べ4.8ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは7.2で、今期と比べ変化なしと予想しています。



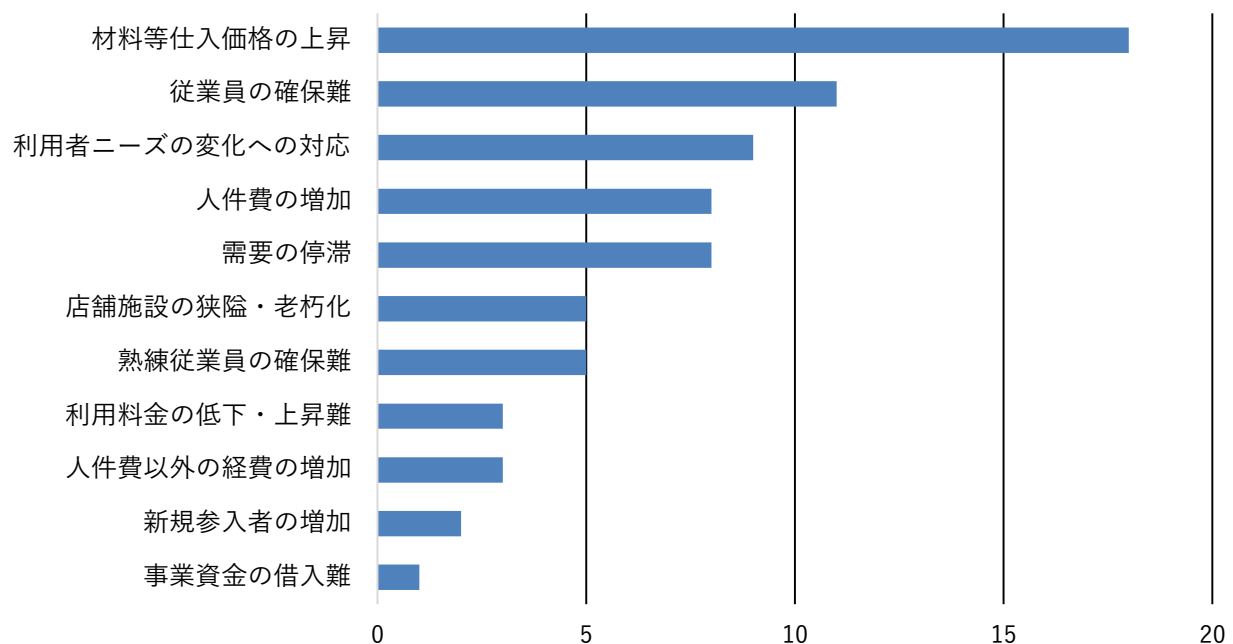
今期の設備投資は33.3%が実施と回答し、前年同期と比べ2.7%低下しました。投資内容は、1位「サービス設備」「車両運搬具」（同位）、2位が「付帯施設」「OA機器」（同位）でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド客の減少と仕入れ価格の高騰が採算の悪化に響いている。(飲食店)
- 毎年4月～6月は売上が減少する時期で前年同期比でも不変であったが、仕入価格が上昇傾向にあり、厳しい状況である。(写真業)
- 前年同期に比べて仕入価格が上昇したが、得意先に交渉し、季節商品の単価を値上げしたので採算は不変となった。(写真業)
- 仕入単価の上昇と人件費の高騰に顧客への値上及び採算改善の依頼を行っているため、何とか利益を確保できている。(各種物品賃貸業)
- 客単価と利益率が上昇し、資金繰りが改善された。(情報処理・提供サービス業)
- 気候の変化に応じて需要が変動するので、例年に比べ気温の上昇が早かった今期は縮毛矯正等の単価が高いメニューの注文が多く、売上額と客単価の上昇の要因であった。仕入価格は相変わらず高いのでコストと品質のチェックをして新しいものを検討している。(美容業)
- 人材確保に成功し、従業員数が増加した。(スポーツ施設)

[来期の業況について]

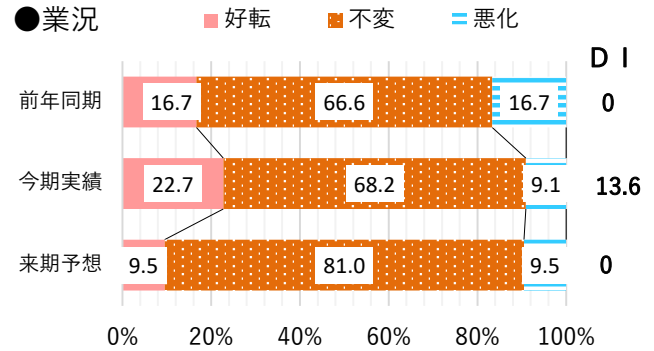
- 国の政策に期待している。(飲食店)
- あまり大きく変わる要因が無い。(ビルメンテナンス)
- 7月～9月は行事も多く撮影機会も多いので売上が伸びると予想する。(写真業)
- 今後も仕入単価の上昇はあるが、効率化をして利益確保の計画を練っていく。(各種物品賃貸業)
- 補助金を用いた設備投資によって対応可能な業務の増加を見込む。(情報処理・提供サービス業)
- 来期に高価格帯メニューの利用客が早い時期に来店したことを踏まえ、別の角度からのアプローチをして売上の現状維持を目指す。また、仕入価格をいかに抑えられるかを検討し、複数の材料店を比較・確認しながら工夫を重ねていく。(美容業)

建設業

業況、売上、採算

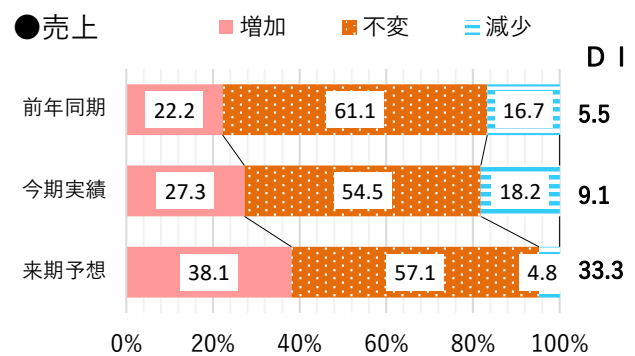
今期（2026.4～6）の業況DIは13.6で、前年同期（2025.4～6）と比べ13.6ポイント上昇しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは0で、今期（2026.4～6）と比べ13.6ポイント低下すると予想しています。



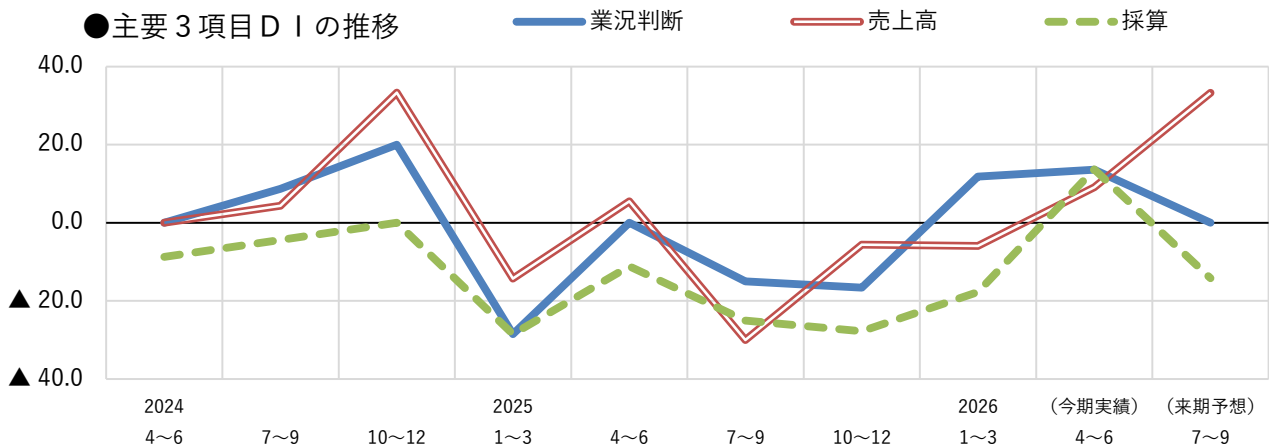
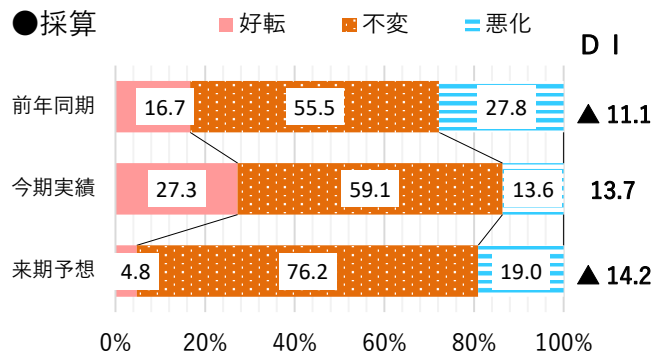
今期の売上DIは9.1で、前年同期と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期の売上DIは33.3で、今期と比べ24.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは13.7で、前年同期と比べ24.8ポイント上昇しました。

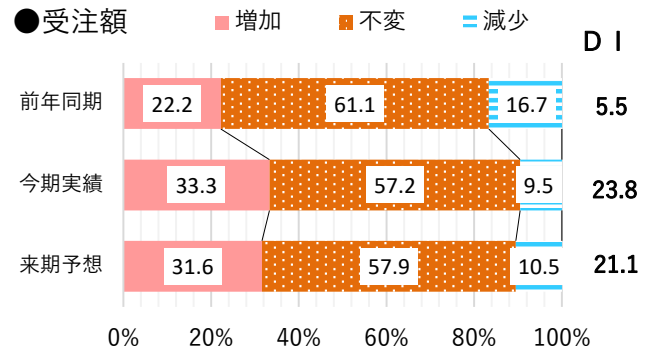
来期の採算DIは▲14.2で、今期と比べ27.9ポイント低下すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

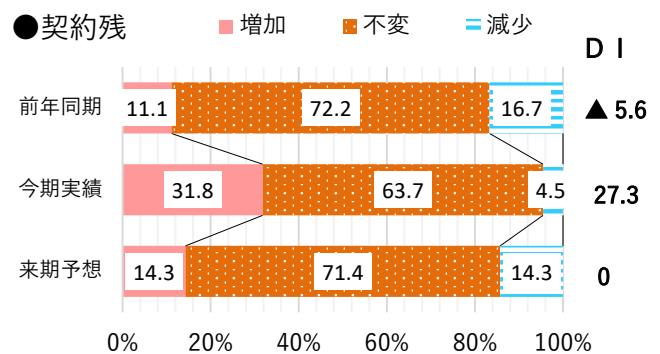
今期の受注額DIは23.8で、前年同期と比べ18.3ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは21.1で、受注額と比べ2.7ポイント低下すると予想しています。



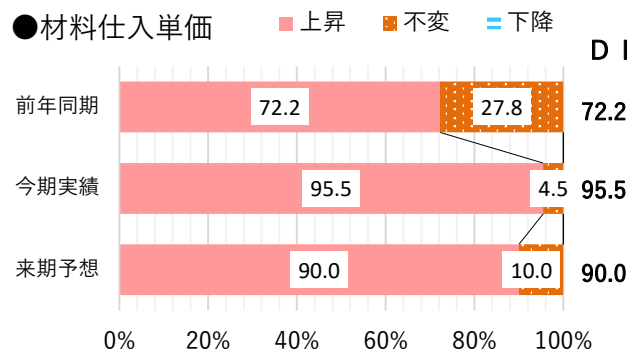
今期の契約残DIは27.3で、前年同期と比べ32.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期の契約残DIは0で、今期と比べ27.3ポイント低下すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは95.5で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇しました。

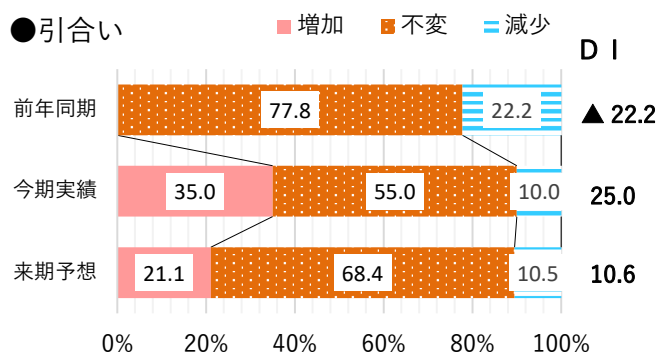
来期の材料仕入単価DIは90.0で、今期と比べ5.5ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは25.0で、前年同期と比べ47.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期の引合いDIは10.6で、今期と比べ14.4ポイント低下すると予想しています。



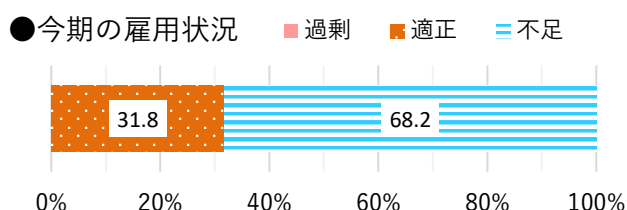
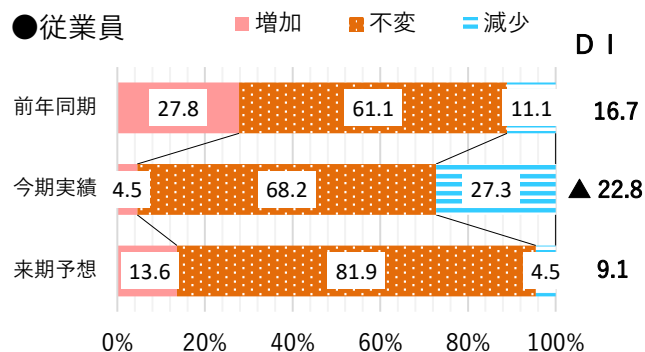
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲22.8で、前年同期と比べ39.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の従業員DIは9.1で、今期と比べ31.9ポイント上昇すると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は31.8%、不足していると回答した企業の割合は68.2%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、40.9%を占めました。



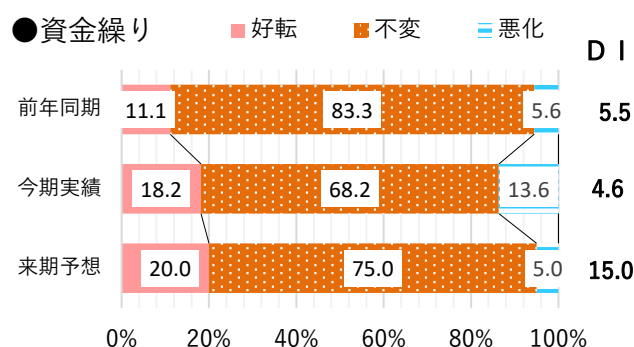
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	4.5%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	27.3%
	不足	40.9%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	27.3%

※回答総数22社

資金繰り、設備投資

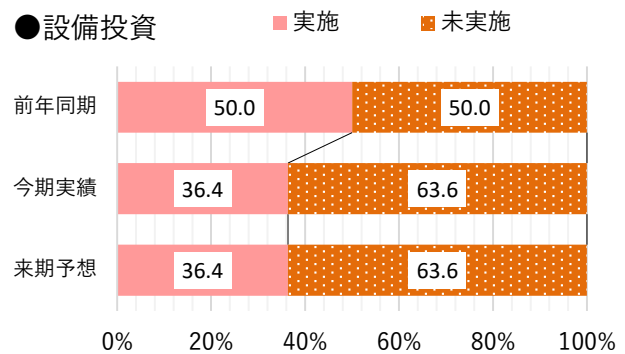
今期の資金繰りDIは4.6で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは15.0で、今期と比べ10.4ポイント上昇すると予想しています。



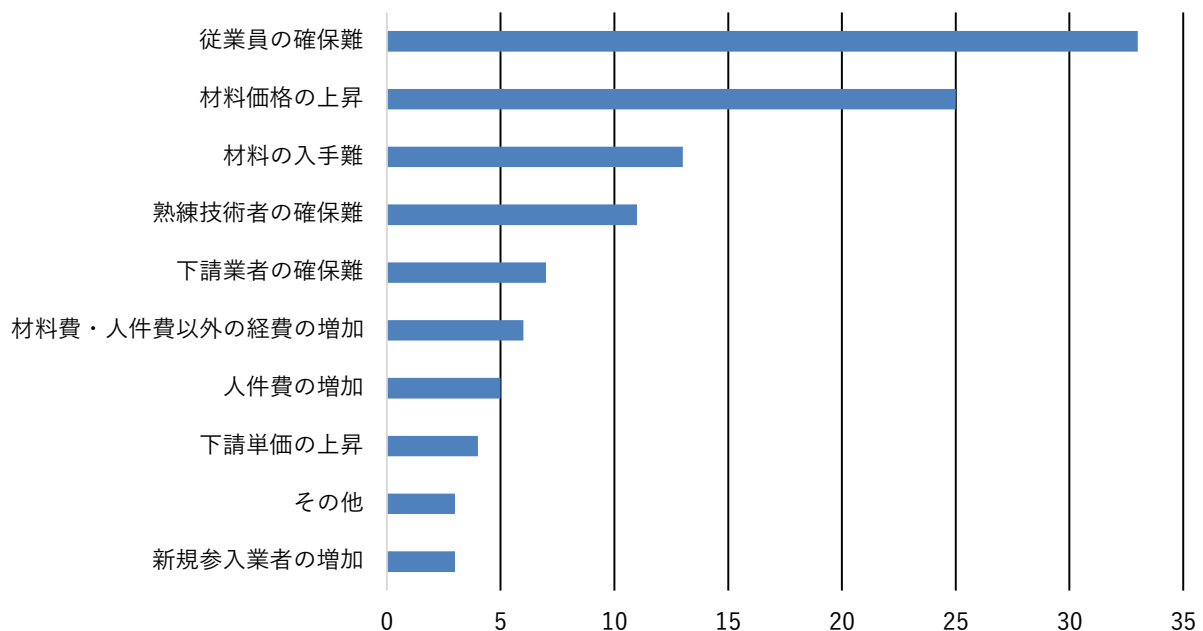
今期の設備投資は36.4%が実施と回答し、前年同期と比べ13.6%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」「OA機器」（同位）、2位が「土地」「建物」「建設機械」（同位）でした。

来期は36.4%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「材料の入手難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 受注件数と受注額は不変だが人件費の増加や資材高騰により利益が減少している。（一般土木工事業）
- 技術者の確保が課題である。（一般土木工事業）
- 人材確保が課題である。（一般土木工事業）
- 仕入価格が上昇した。（一般土木工事業）
- 人材確保に難航している。（造園業）
- 資材関係の値上がりはあるものの、価格に転嫁できている。（一般管工事業）
- 人材確保が難しい。（電気通信・信号設置工事業）
- 資材費の上昇が目立つ。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 公共事業を中心としており、前年度並みの応札を予定しているが人件費の増加や資材高騰による利益の減少は避けられない。（一般土木工事業）
- 人材不足を予想している。（一般土木工事業）
- 原価の上昇は続くと予想しているが、価格への転嫁も引き続き可能だと考えている。（一般管工事業）
- 中東情勢の影響で資材の入手が困難にならないか不安である。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2026年4月～6月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は3件、前年同期比増加
負債総額は121,000万円、前年同期比増加

倒産件数		負債総額	
3件		121,000万円	
前年同期比	件数 +3件 (前年同期 0件)	負債 +121,000万円 (前年同期 0円)	
■4月 惣菜製造（負債90,000万円：販売不振による特別清算）の1件が発生した。			
■5月 青果物販売（負債28,000万円：販売不振による破産）の1件が発生した。			
■6月 食料品・燃料の販売（負債3,000万円：偶発的要因による破産）の1件が発生した。			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2026年4月～6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は70件、前年同期比変化なし
新設着工住宅戸数は30棟30戸、前年同期比増加

建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数	
70		30棟30戸	
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 70件)	戸数 +6棟+6戸 (前年同期 24棟24戸)	
※変更確認又は変更通知を除く。			